

日七十月一年五十四治明  
濟定檢省部文

375.9  
Mo18  
資料室



# 最新 地理系統

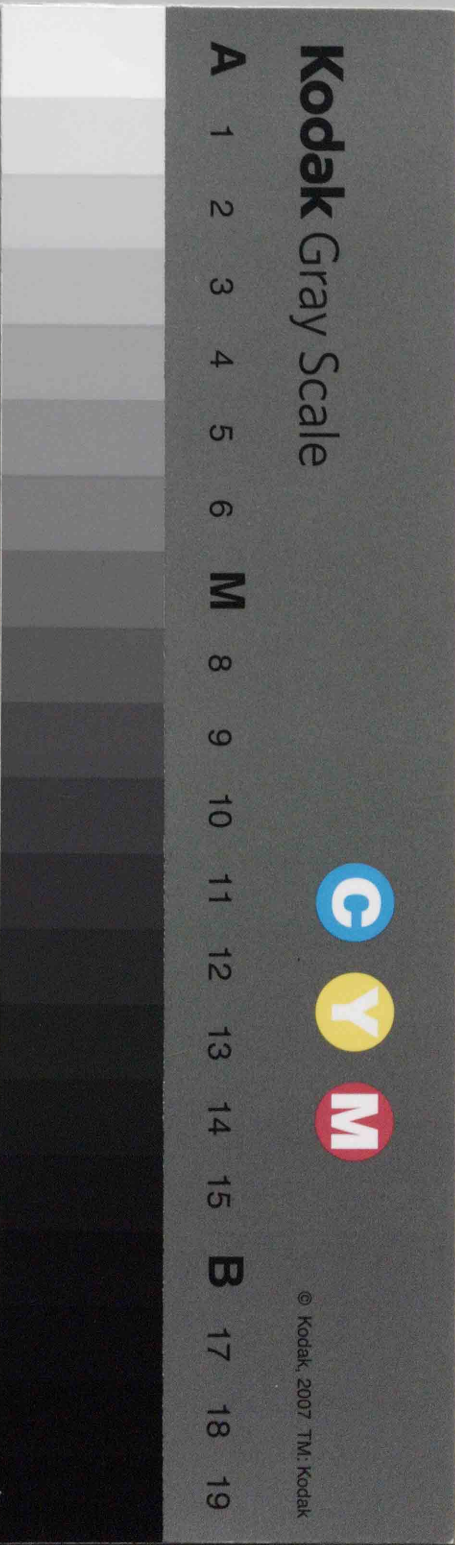
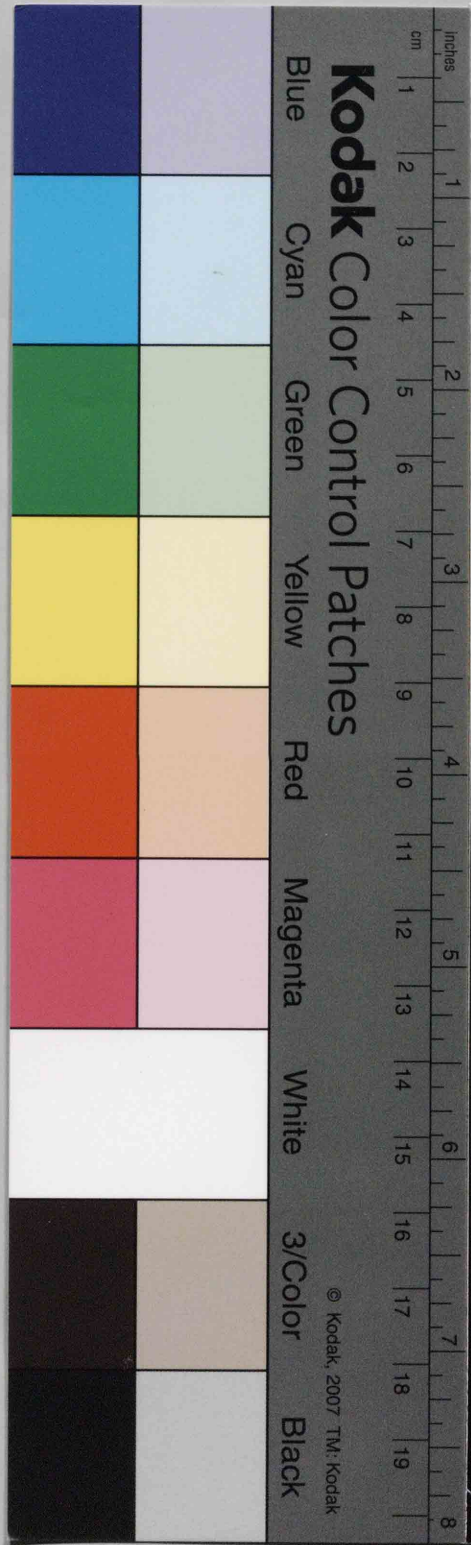
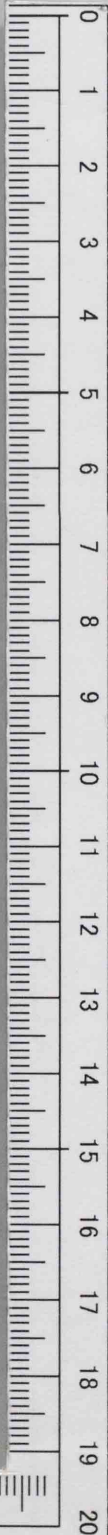
用校學中

卷上 部之國外

*S. Norishige*



行發館文光京東



42841

教科書文庫

4
293
41/1912
20000 44052



資料室

Glory Middle school

S. Norishige

村中祖師  
七五  
常  
部  
成  
法

375.9  
Mo 18

Abigen

Shiroshima Shu

S. Norishige

Nukushina

日七十月一非五十四治明  
濟定檢省部文

新 最  
理地統系

用校學中

卷上部之國外

著雄美荒屋守



行發館文光京東

*S. Norishige*

*✱*

*Norishige*

*1914*



## 例言數則

- 一 本書は、中學校第二學年に於ける、外國地理科の教材に充つる目的を以て、編纂したるものなり。
- 一 近きを先きにする主義よりせば、亞細亞洲は、中學校第二學年の課程となすべけれども、こは學生の智能の發達程度よりせば、大なる考慮を要すべきものならん。然り實に、大なる考慮を要すべきが故に、教授當局者は、適應なる教材を補綴して、本書を、第三學年又は第四學年の教材となすも、敢て妨ぐることをなし。
- 一 本書の大意は、文部省訓令第十五號即ち中學校教授要目(以下要目と略稱す)に則れり。されど著者が、過去十有五年の教授と、六七年間に於ける著作との經驗に基づき、多少要目を遵守せざりし所あり。是れ畢竟、要目を柱石としつゝ、要目よりも、百尺竿頭一步を進めんとする素志に、出でしに外ならざるなり。

文部省訓令第十五號は、要目實施上の注意第二項に於て、要目に掲げたる事項及び順序は、斟酌を加ふるも妨げなしと明記せり。夫れ苟も、教授及び著作の進歩發展を促さんと欲せば、本項なかるべからず。著者は實に、本項を挿入すべきにつき、當局者に苦言したることゝて、本項を見るに及んで、一に當局者の雅量に、感謝せざるを得ざりき。

一 然らば本書が、要目に遵據せざりし點果して如何。今其の一二を摘記せんと欲す。

(1) 本書は、各説を先きにし、總説を後にしたり。抑も總説と各説との排列方は、明治二十六七年頃より、教科書の著作者が、苦心苦慮せしものなり。而して近年までは、總説中の地文誌を先きにし、各説之に次ぎ、總説中の人文誌を以て、最後となすこと、殆ど一般に行はれたりしが、最近に至り、總説全部を先きにし、各説を後にするに至れり。

要目と曰ひ、一般の著作者と云ひ、總説を先きにするには、確固たる論據ありしなるべし。されど悲の哉、著者は、之に同意すること能はざるなり。

現に要目は、第一學年の分に於て、地方誌即ち各説を先きにして、總説を後にせるにあらすや。而して大陸的海洋的氣候又は溫度と雨量との干係を、各國に應用するが如き、少數の事項に於ては、演繹的に教授し得られざるにあらざれども、地理科が、概ね歸納的學科なりとせば、予の意見強ち偏僻にあらざるべし。

殊に總説を先きにせんか、位置境域の外は、概ね具體的に教授し得ずして、さなくとも、散漫朦朧に陥り易き地理科をして、愈益、散漫朦朧たらしむるなり。然らば、一步進みて、具體的に説明せんか、既に各説と重複する上に、教授の困難夥しく、而して其の效果も亦、甚なきを如何せん。

今試に之を例するに、亞細亞洲の地勢中、パミル高原を中心として、山脈五方又は四方に走れる事は、或は先きに教授する方可ならんも、更に進んで各山脈を説明するは、教授上、果して得策なるや否や。從來の教科書の如き、總説に、ヒンヅークシ、エルブールズ二山脈の如きを記すれども、各説中には、之を缺くもの多くして、遂に右の山脈の位置すら、學生の腦中に殘

るなし。嗚呼是れ、世の著作者及び要目制定者は、果して之を知れるや否や。且つや教授の段階には、概括なるものあり。然り果して然らば、各説を教授したる後、總説を以て、概括の大部となし、以て問答的形式の教授によらんか、如上の地勢の如き、學生の腦裡に、明瞭確實となるのみならず、總説を各説の先きに、教授するよりも、頗る容易なるものあらん。從來、總説を最終に教授したる際、學生が、之を疎んずる傾向ありしは、著者の能く知れる處なり。されどこは、概括的問答的教授によらざりし爲に、あらざるなからんや。著者が、各説の次ぎに、總説を置きたる所以、寔に偶然にあらざるなり。

(2) 總説を後にしたる結果、要目の如く、滿洲地理を別編となさず、直に各説の清國に及び、之を〔甲〕關東州、〔乙〕滿洲(除關東州)、〔丙〕清、〔丁〕外領及租借地として記述せり。其の清國中に、更に清の小區別あるは、一見奇なれども、亞細亞洲の地理以外に、滿洲地理ありて、更に其の滿洲地理の中に、關東州と滿洲との小區別ある要目に比すれば、形式に於て、寧ろ論理的なりと信す。

(3) 本書は、卷頭第一即ち各説の前に、區劃を掲げたり。是れ總説を先きに

すると、各説を先きにするに拘はらず、亞細亞内部の大體の區劃を教授すること、教授の進行上に、大便宜ありと信じたればなり。

(4) 著者は、生業の文字を以て、唯、地理書のみ、の術語と思惟し、普通に用ふる産業の文字を以て之に宛て、且つ貿易は、産業中に包含するものなれども、記述の便宜上、概ね産業より分離して、交通と結合せしめたり。即ち貿易交通又は交通貿易と題して、産業の次ぎに記述したり。又時により、産業又は交通と別立して、記述せし處もあり。

斯くて著者は、文部省訓令第十五號が、要目の事項及び順序に、斟酌を加ふるも妨げなしと、明記せられたる結果、著者の教授上の經驗を、本著に現はし得たるを喜ぶものなり。

一 本書は、題して最新系統地理と云ふ。是れ徒に、聲を大にするものにあらず。又奇矯に馳せんとするものにあらず。

著者は、固より淺學なり、菲才なり、而して微力なりと雖、旭日昇天の我が國運に伴ふべき、地理教科書を編纂するを以て、自己の生命とし、理想とせ

んとするものなり。

夫れ數多の名詞を臚列するは、是れ當今の地理教科書にわらずや、都會の筋書に止まるは、現今の地理教科書にわらずや。是れ著者が、最も不滿に堪へざる所なり。

而して又、地文と人文との二者中、何れに重きを置くべきか、地文人文の相關を保てよ、地理と歴史との關係に注意せよと云ふが如き論議は、多少耳を傾くべき理由あらんも、著者は、更に、從來、教授上又は編纂上、寧ろ忽諸に附せられし産業に、重きを置くを以て、眞に地理教科書の最新系統なりと確信するものなり。之を換言すれば、當今の地理教科書は、産業地理又は經濟地理に、重きを置かざるべからずと信す。

人或は謂はん。從來、産業を教授するは、頗る困難なりしに、今敢て之を爲さんとするは、不可なるなからんやと。夫れ然り豈に夫れ然らんや。

教授者先づ、産業に興味を持ち、且つ山川都會の名詞注入を以て、地理教授の本體となさざらんか、敢て教授の困難を感せざるべし。今や世運と時

代とは、産業地理又は經濟地理の教授を要求せり、然らば從來、都會の筋書教授に盡せし努力の如きは、之を産業の教授に轉用すべきものにわらずや。本書が、最新系統地理と題せし根本理由、實に爰に存す。

一 本書は、要目に示せる項目を、各説中に於ても、總説中に於ても、截然自然地理と人文地理との二つに分ちたり。但し各説中の都會に就ては、次項に記する如く、之を省略すること、せり。否な一種の記述法によりて、自然地理事項又は人文地理事項に關聯せしめて、之を説述すること、せり。

一 本書は、從來の地理書と異なり、各説中に於て、都會の目を省き、以て他の事項の下に、聯絡を保持して、之を記述したり。從來、都會は、各説(各國誌又は地方誌)の内容に於て、其の大部を占めたり。而かもそは、案内記としては、趣味なく、又實際の用に立つことも少なし。斯くて學生又は世人をして、地理科は、誦讀のなり、機械的なり、筋書なり、乾燥無味なりと謂はしめ、以て時世上、頗る重要な地理科を、蔑視せしむるに至らしめたり。嗚呼、こは果して誰れの罪ぞや。

本書は、如上の都會記述法のみを以てするも、既に業に、世の教科書と全然體裁を異にするものなり、是れ亦、最新系統と題する一大理由ならずとせんや。

一 本書の地名人名の書き方及び稱へ方は、一に文部省發表の調査表に従ひたり。而して高等小學地理卷一の稱呼は、右の調査表と、相異なるものあり。かゝる場合に於ては、右調査表と對照せしめん爲、括弧の内に、高等小學地理の分を記し、釐頭に於て之を示せり。

一 本書は、挿繪挿圖の數を、頗る多くしたり。其の挿繪挿圖は、本書の記事と、適切なる關係あるものを撰び、且つ大小其の度を得せしめて、學生に快感を與へんことを期したり。

一 本書は、行文の流暢快活ならんことを期したり。而かも紙數は、多からざるなり。夫れ冗長蠟を嚼むが如き文詞にして、學生の趣味を喚起し、復習の慣性を作らんとするは、是れ寔に、期し得べき事ならんや。著者は、筆を行る毎に、此の點につき、多大なる注意を拂ひしことを、こゝに表明せんと

欲す。

一 本書の計數に係るものは、主として一九一一年英國政家年鑑によれり。都邑名の左側なる數字の如きも、亦主に右により、萬を單位として、人口數を示したるものなり。されど又、新聞雜誌及び最近の農商務統計表大藏省貿易年表等によりしものも、亦少なしとせず。

一 微力を顧みず、當今の地理科をして、生動せしめんと欲する著者の地位を諒せられ、江湖の教官諸氏が、教授の實際より、痛切なる助言を與へて、本書の修訂に資せられんこと、寔に翹望に堪へざるなり。

一 本書は、其の内容、全く從來の同種教科書と、相異なるが故に、之を表明せんが爲に、覺えず數千言を費したり。幸に之を恕せられよ。

明治四十四年

秋涼郊墟に入るの時

湘南茅ヶ崎の僑居に於て

守屋荒美雄誌



す啓に者習學者授教に特

本書は、從來の地理教科書に比し、内容の大に異なるものありて、最新系統地理てふ語の實を擧げたりと信ず。されば本書を、教授し學習する場合に於ては、從來の地理教科書の教授又は學習とは、自ら其の間に差異あることを諒せられたし。

本書は、都會てふ項を省略して、之を、産業貿易交通政治などに、連絡せしめられたれば、教授又は學習の終りに於て、一都會を、種々の方面より、考慮せられんことを望む。又卷末の主要名詞索引中に、之を記述せる各場所を示したれば、之を參考せられんことを望む。

本書中、符が、半島、河湖等の上にある時は、既習の事項なるが故に、適宜の文詞を挿入して、誦讀せられんことを望む。又符が、或る事項の下の右脇にある場合には、誦讀の際、之を考慮せられんことを望む。例へば亞細亞洲の東は？洋にして、そこに一大列島ありと、記述したる場合あらんか、上なる？には、太平の文字を宛て、下なる？は、日本なりと考慮せらるゝが如し。

挿繪挿圖 目次

亞細亞洲區劃	一頁	滿洲鐵道	五頁
關東州の製鹽	三	日・滿の重要貿易品	七
大連の埠頭	四	露國經營の哈爾賓新市街	九
關東州地圖	五	奉天	三〇
日・關の重要貿易品	五	大連所在の南滿洲鐵道會社	三〇
滿洲自然地理圖	八	該會社の撫順炭坑の一部	三〇
日本人の鐵嶺製粉所	一〇	該會社の遼陽醫院	三〇
營口	二	該會社經營の大連大和ホテル	三〇
高粱の密生と其の刈り入れ	三	清國地勢圖	三三
滿洲重要都會	三	黃土	三四
營口に於ける日本人經營の油房	四	支那本部の河流と重要都會	三五
同上附近の狀	四	清國の海岸	三六
		阿片の原料たる罌粟の畑	三七
		麝香	三九
		鹿	四〇

日本輸出の水産物	三三頁
清國の主要工藝品	三三頁
清國の産業關係地	三三頁
清國の重要なる貿易國と貿易品	三三頁
清國の重要商業地	三三頁
漢口に於ける磚茶	三三頁
の荷造りと倉入れ	三三頁
廣東の市街	三三頁
日・清の重要貿易品	三三頁
清國の鐵道系	三三頁
清國交通機關の一(橋)	三三頁
同 (一輪車)	三三頁
同 (ジャンク)	三三頁
蒙古人の天幕生活	三三頁
辮髮	三三頁

漢族婦人の履と纏足に基づく足形	三三頁
會食中の清國人	三三頁
阿片を吸へる清國人	三三頁
厦門より海外に移住せんとする清國人	三三頁
喇嘛教徒と喇嘛教王の宮殿	三三頁
清國の區劃圖	三三頁
萬里長城	三三頁
威海衛地	三三頁
膠州灣地	三三頁
香港地	三三頁
香港のケイブルカー	三三頁
日・香の重要貿易品	三三頁
澳門地	三三頁
廣州灣地	三三頁

天津に於ける日本人街	三三頁
亞細亞露西亞自然地理圖	三三頁
ペーリンガ海地方の海豹群棲	三三頁
馴鹿	三三頁
黒貂	三三頁
露西亞の富源分布	三三頁
ウラヂボストク	三三頁
犬糧	三三頁
亞細亞露西亞の鐵道系	三三頁
高加索人	三三頁
亞細亞土耳其及亞刺比亞地圖	三三頁
死海附近の斷面と平面	三三頁
珈琲	三三頁
棗椰子	三三頁
アンゴラ山羊	三三頁

アラビア人	三三頁
伊蘭地方地圖	三三頁
印度自然地理圖	三三頁
印度洋上に於ける	三三頁
南西季候風の發達	三三頁
毒蛇の一種(コブラ)	三三頁
幾那を供するシンコナ	三三頁
肉桂樹	三三頁
ハンヤン樹	三三頁
大麻	三三頁
亞麻	三三頁
黄麻	三三頁
苧麻	三三頁
木藍	三三頁
印度産業關係地	三三頁



自然地理	五
人文地理	五
第三節 亞細亞土耳其及亞利比亞	六
自然地理	六
人文地理	六
第四節 伊蘭地方	六
自然地理	六
人文地理	六
第五節 印度附錫蘭	六
自然地理	六
人文地理	六
第六節 印度支那	六
自然地理	六
人文地理	六
第七節 馬來諸島	六
自然地理	六
人文地理	六

第二章 總說	九
第一節 自然地理	九
第二節 人文地理	九

最新系統地理 [中學校用] 外國之部 五卷目次 (終)

最新系統地理 [中學校用] 外國之部 五卷

守屋荒美雄著

亞細亞洲

Asia

日本	Japan	清	China	亞細亞露西亞	Asiatic Russia
亞細亞土耳其	Asiatic Turkey	及	亞刺比亞	Arabia	亞
伊蘭地方	Iran	印度支那	印度	India	馬來諸島
印度支那	Indo-China		馬來諸島	Malay Archipelago	

第一章 各說

第一節 清

[甲] 關東州

面積 七萬方里  
人口 三〇〇萬人

面積 二〇〇方里  
人口 四萬八千人



亞細亞洲 區劃 各說 清關東州

自然地理

位置・境域 想ひ起す、過ぎにし明治二十八年、我が國は、露佛獨三國の干涉によりて、遼東半島を還附クソツプしたり。關東州は、實に、同半島の南西尖端センダウを占め、黃海、渤海間に挾まる。而して其の面積は、僅に二百万里あるのみ。

地勢 域内は、赭禿セツトクの丘陵多くして、平地まことに少なし。

海岸の出入稍著しく、中にも大連、金州の二灣、東西兩側より相逼りて、一の地峽ダウを形成し、以て半島を二部に分てり。

Dairen (Liaon) Kichow

東方海上に、長山列島あり。列島の東方に、海洋島浮べり。其の冲合は、日清役の海戦に著はる。

氣候 氣候を、本邦のそれと比較するに、寒暑共に甚しく、殊に冬寒は強烈にして、沿海の港灣、氷結せざるはなし。

×普通に金州地峽と云ふ

人文地理

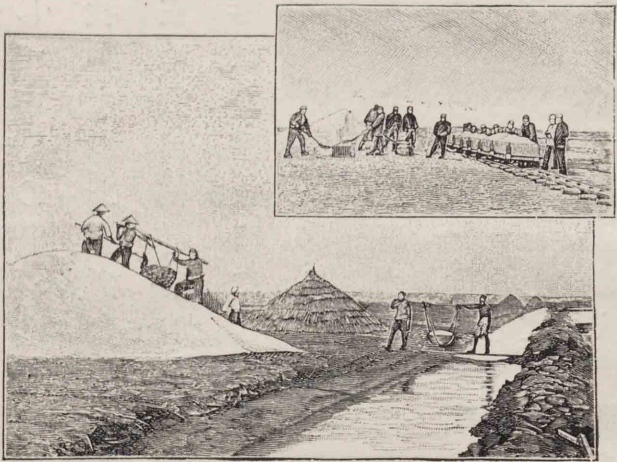
産業 地勢上、固より農牧林の三業に適せざるも、沿岸は、

漁業・製鹽業、二つながら有望に

して、又大連には、豆油・豆糟煉瓦の製造等、稍見るべきものあり。されど本域が、産業上、重きをなす所以は、主に滿洲の通商貿易に關して、重要地點を占むるにありとす。

貿易交通 貿易の大部は、我

洲の通過貿易を、主となすものとす。

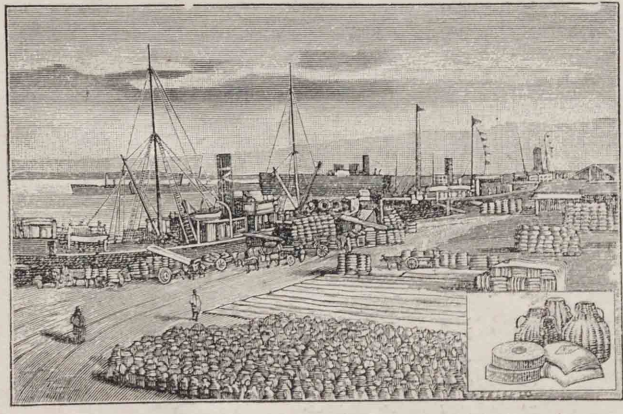


關東州の鹽製

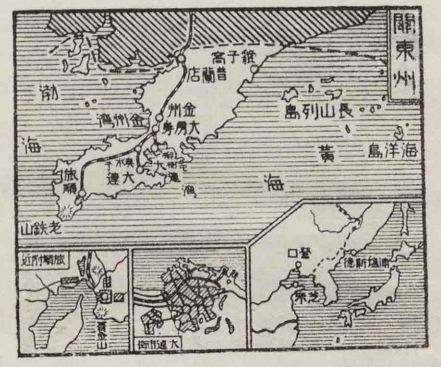
△海洋島附近及び西海岸を主とす  
×貔子窩附近を主とす

大連は、露國が、五十萬の商民を入るべく、計畫せしものにして、市街の整頓、港灣の規模設備、寔に東洋稀に見る處なり。我が南滿洲鐵道會社の所在地にして、其の鐵道の南起點を占め、我が朝鮮内地及び北清の諸港は勿論、上海にも汽船を通じ、又芝罘に、海底電線を通ぜり。自由港制を布きて、各國の貨物出入を至便ならしめ、又近時、旅順の西港は、之が補助港として、解放せられたり。斯くて露國の東門、即ち浦鹽斯德に對しては、歐亞交通の雌雄を競ひ、又營口に對しては、南滿洲に

×關東州以外に入る貨物には關稅を課す



大連の埠頭 (大豆・豆糟・油豆入大豆袋に注意せよ)

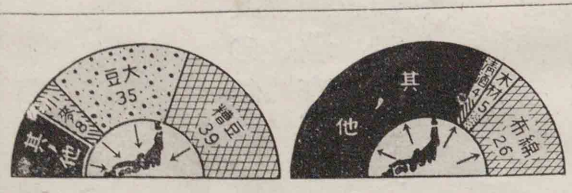


×柳樹屯大房身間の鐵道は運轉休止

日本輸出 一六〇萬圓  
關東州輸出 一〇〇萬圓

關する貨客の吞吐を争ひて、大豆・豆糟・豆油・石炭の積み出し、特に多大なり。に起る南滿洲鐵道は、本域に於て、旅順と柳樹屯とに起る二支線と會し、北上すること四百四十哩、長春(滿洲)にて、露國の鐵道と接續し、以て歐亞交通の一幹線をなし、又南滿洲に關する貨客の出入と、我が同胞の飛躍とを、計ること甚だ大なり。

【日關貿易】日關貿易の大門戸は、我にありては神戸・大阪、彼れにありては大連なり。我が國は、彼れより豆糟・大豆・穀類を輸入し、綿布・木材・清酒を輸出し、其の輸出額は、輸入



日關貿易の重要貨品

額の二倍なり。如上の貿易品は滿洲に關するもの多く、即ち大連が所謂通過貿易港たる所以なり。又我が輸出品中には、移住本邦人が需用するもの少なしとせず。

**住民** 人口四十五萬、清國人四十萬を超え、其の餘は、概ね移住の我が同胞なり。我が國の租借以來、普通教育、漸く普及せんとする上に、今や旅順工科學堂（高等工業學校程度）の設けさへ、是れあるに至れり。

**政局** 露國は、三國干涉、遼東半島還附の功を恃みて、我が國の感情を顧みず、厚顔にも本域を租借して、東方の經營に關し、主要の策源地となせしが、遂に我が國は、血と骨と肉とを以て、其の租借權を領得せり。即ち彼の地峽部の南山と、難攻不落と聞えし南西部の旅順とは、實に我が軍が、克く謀り

今や旅順の西港は商港となれり

克く戰ひて、露軍を破りし所なり。

今や我が國は、軍港旅順に、旅順鎮守府關東都督府を置き、其の都督府は、本域を始め、南滿洲鐵道の沿邊なる、細長き我が租借地の守備民政に當り、且つ旅順大連の民政署を統ぶ。其の大連民政署の支署、金州にあり。

斯くて本域は、地積掌大にして、且つ地産少なきに拘らず、政治軍事移民商業將た交通などに於て、今や甚大の意味を、有するに至りたり。

〔乙〕 滿洲（除關東州）  
Manchuria

自然地理

**位置境域** 我れ等同胞が、將來、大に飛躍せざるべからざる滿洲は、清國の北東隅を占め、四圍に、亞細亞露西亞蒙古支

面積 六萬方里  
人口 一六〇萬人



那本部渤海黃海さては朝鮮あり。面積六萬方里、黑龍江吉林、盛京の三省に分れて、一に東三省と稱せられ、南端の遼東半島に、我が租借地あり。



×北部と南部との二つに分る

地勢 西方なる興安嶺山脈と、東方なる長白山脈との間に、滿洲平野、遠く相亘りて、概ね四望濶然、天と地と相接し、我が移住本邦人の如き、先づ其の浩大を感ずとかや。松花江は、興安

嶺山脈に發する、其の支流嫩江と共に、滿洲平野の北部を流れて、北境の黑龍江に入れり。近年露國は、その航行權を得、北滿洲に關する、貨物出入の一路を開けり。北東境上の烏蘇

里江も、清露分屬の興凱湖の水を容れて、黑龍江に合せり。遼河は、滿洲平野の南部を流れ、農業交通を資すること大にして、南滿洲の開拓に缺くべからず。河口の營口が、大連の勁敵たるは實に一條の本河あるが爲なり。又、朝鮮との境上を流るゝ二河は、木材の運搬に用ふべし。但し何れの河流も、冬季に氷結すべき缺點あり。

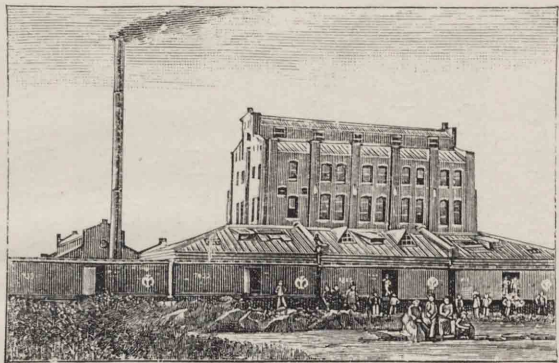
滿洲は、唯南西部のみ海に沿ひ、遼東西朝鮮の二灣ありて、其の二灣間に、半島斗出せり。

氣候 我が朝鮮に比するに、寒暑の差甚しく、雨雪の量少なし。冬季は、河川海岸、何れも氷結す。又七八月頃は、季候風の影響により、大雨降りて河水横溢し、泥濘膝を没すてふ語を、實現する處稀なりとせず。

人文地理

産業

農は、滿洲産業の生命なり。乃ち南部の外は、小麥



所粉製嶺鐵の入木日 (鐵洲滿南に直て見を紋定の其は車貨) (しべ得り知をとるたのもの社會道)

の産多くして、哈爾賓には露人、鐵嶺には日人の製粉所あり。中部以南には、大豆高粱の産多大なり。其の大豆は、食用たる外、搾りて豆油、豆糟を製す。其の豆油は、食物の調理と、燈火とに用ふべきのみならず、近年獨逸にては、之を機械の運轉、石鹼の製造に供し、又漬物用となす國あり。豆糟は、好箇の肥料たるのみならず、近年英國にては、之を飼畜料にも供す。斯くて滿洲大豆は、其の名世界

\*年産額約一千萬石

\*我が豆腐醬油の原料ともなる

△蠶を漬物にするは其の一例

\*遼河の河口港馬蜂溝を控ふ

\*我が國人の所謂モロコシなり  
\*日露の遼陽戦に我が軍之を利用せり

高粱の稈は薪炭となき滿洲に於て主たる燃料たり今若し盛に之を製紙原料となさんか我が撫順炭坑は一層の盛況を見るに至らん

に轟き、蒙古との商業關係深き、長春鐵嶺通江口法庫門などは、多く之を集散し、又大連營口は、其の製品即ち豆油、豆糟と併せ輸出して、一段の繁榮を加ふ。高粱は、夏季に於て、密林の如く生育し、其の實は、以て住民の常食となすべく、以て高粱酒を醸すべし。又其の稈は、長さ約一丈五尺に達し、以て屋根を葺き、土壁に代へ、燃料に供すべし。殊に近年、好箇の製紙原料たること、發見せられて、既に關東州の大連には、其の工場あるに至れり。

馬、豚等の飼養行はれ、殊に馬は、體軀こそ矮小なれ、頗る強



口營 (クンヤツるたしる下み積を物貨は側左) (な河遼び再てしる下積を物貨は側右) (クンヤツるすとんら遼)

健にして、從來、滿洲騎兵の驍名をして、世に高からしめしものなり。

のなり。

滿洲は、森林割合に少なきも、鴨綠江の上流附近は、密林遠く

亘りて、

日清合

辦の伐

木榮え、

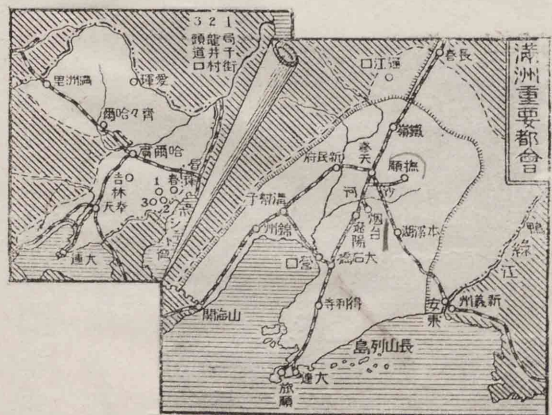
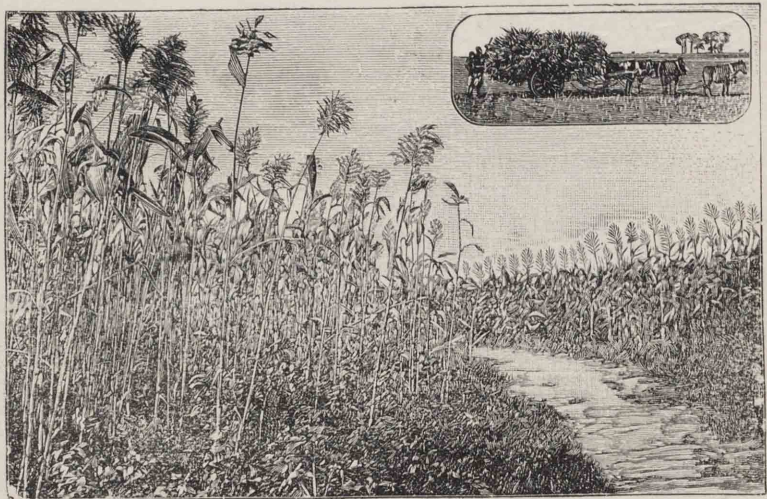
下流の

安東は、

之が集

散多し。

高粱の密生とその入り



×一部は既に開坑

本溪河には日清兩國により製鐵所設立せられん

撫順炭坑は、南滿洲鐵道會社に屬し、炭質良好なる上に、炭層廣大にして、炭量二億餘噸と算せられ、東郷大山二坑完成の曉には、一年の出炭額、無慮二百萬噸に上るらん。煙台本溪湖の炭坑も亦、我が利權の下にあり。

右の外、吉林省の煙草毛皮、南東部の柞蠶絲も、亦以て、滿洲の富源に數ふべきものなり。

工業は、其の發展を、他日に期せざるべからず。但し豆油豆糟高粱酒の製造は、從來、よく榮えたり、加之、今や日露兩國人は、各機械的製粉業を起し、又營口に於ては、豆油豆糟の文明的搾取を、營める本邦人あり。

貿易交通

北部は露國、南部は我が國と、貿易關係深しと雖、謂ゆる門戶解放、機會均等主義の地とて、各國の貿易、自由



口に赴く支線もあり。

清國の京奉線は、奉天に於て、南滿洲鐵道に連絡し、新民府を経て、溝幫子ホレに達し、營口より來れる支線に會して、支那本部China Properに入り。新民府法庫門間の鐵道は、英人の企てしものなれども、南滿洲鐵道の併行線なれば、我が國、之に抗議して中止せしめ、又錦州驛より、遠く黑龍江岸の愛琿Alganに至るべき所謂錦愛鐵道は、米人の計畫せしものなれども、露國、之に抗議して中止せしめたり。

吉長鐵道は、我が國の利權の下に、清國の着手せしもの。我が國が、投資權を得たる吉會鐵道は、之と吉林に於て連絡し、間島を経て、朝鮮の會寧に達し、日本北滿洲間の捷徑捷徑たらんとするものなり。但し清國は、滿洲の東門たる琿春琿春に、吉長線

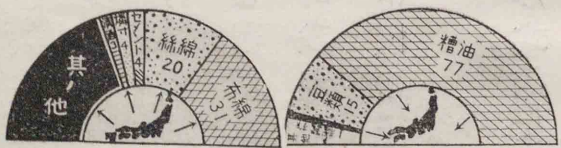
\* 南滿洲鐵道會社が二百五十萬圓を貸付、鐵道の敷設經營を監視するものとす

\* 露國ボシエツト海を海上への出口とす

を延長せしめんとする、計畫ありといふ。若し此の計畫にして、實現せられんか、吉會線の價值、大に減じて、朝鮮の清津は、琿春と、競争の位置に立つことゝならん。

【日滿貿易】 滿洲殊に南滿洲は、我が移民通商に於て、日に月に緊密を加ふ。彼れの豆、糟、豆類、柞蠶絲柞蠶絲と、我が綿布、綿絲とは、重要貿易品にして、輸出輸入の額略、相等しく、尙ほ別に關東州を經由する貿易品甚だ多し。我が國は、總領事館を哈爾濱、奉天、間島に置き、領事館を齊々哈爾濱、長春、鐵嶺、新民府、遼陽、營口、安東、吉林、頭道溝、局子、街、琿春に置きけり。

住民 面積、我が國の一倍半あれども、人口は、僅に千六百萬にして、滿洲族よりも、却つて漢族多し。是れ滿洲族が、清廷と共に南移せし上に、漢族が、頻に北移したればなり。南部殊に南滿洲



日・滿の重要貿易品

\* 繭、蠶、蠶、繭、布の原料たり  
日本輸出 九〇〇萬圓  
滿洲輸出 一〇〇〇萬圓  
△は總領事館の分館所在地

×我が移民の多き  
地には小學校を設  
く

鐵道沿邊の附屬地には、我が移住民多くして、其の數約三萬を算し、又間島附近には、別に我が朝鮮人の移住多し。南滿洲鐵道の事業の外、鐵嶺に於ける製粉、營口に於ける製油、電燈、電話、水道の經營の如きは、我が同胞の活躍せる著例なり。教育は、一般に振はず。獨り此の間に在りて、近時我が南滿洲鐵道會社が、奉天に、南滿醫學堂を設立せしは、清國の上下は勿論、世界の人目を惹くに足る。

宗教は、唯、舊慣によりて、道教、喇嘛教(佛敎の一派)など、形式的に行はるゝのみ。此の間にありて、英米などの宣教師は、一に基督教の普及に努む。

政局 露國は、彼の三國干涉の功により、清國上下の歡心を得て、關東州を租借せしのみならず、東清鐵道の敷設權と、



露國經營の哈爾濱新市街

石炭の採掘權とを得、北清事變以後は、滿洲全部を占領し、關東州の施設經營は勿論、哈爾濱の新市街の如き、全く露國の創設せしものとす。斯くて我國は、之を東洋永遠の平和に害ありとし、關東州の旅順を始め、本域の撫順、奉天、沙河、遼陽、大石橋、得利寺等に於て戰へり。今尙ほ北滿洲は、露國の勢力大なれども、南滿洲は、全く我が勢力範圍となりて、我が國民の北進、日に月に多く、又關東

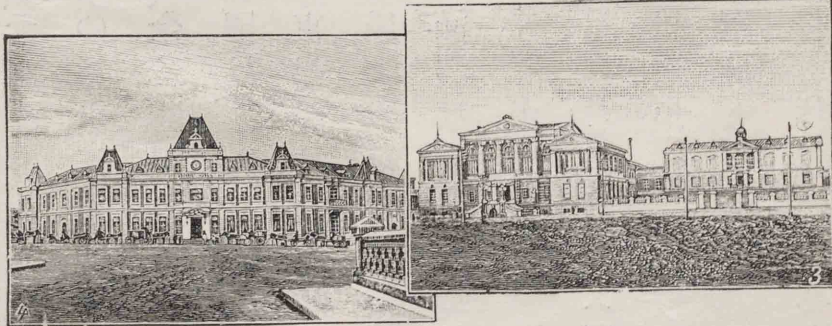
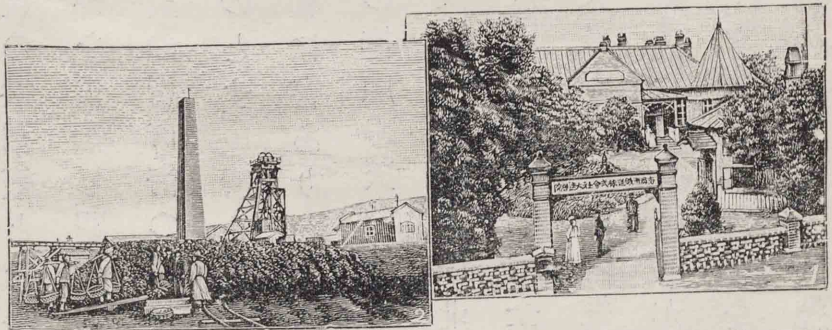
都督は、南滿洲鐵道沿邊に於ける、我が租借地(所謂鐵道附屬地)の文武兩政を掌り、遼陽に、守備隊の一本據を置けり。

遮莫清國は、盛京省の奉天に滿洲總督、吉林省の吉林と、黑

龍江省の齊々哈爾  
とに、巡撫を置き、從  
來よりも、施政に注



天 奉



部一の坑炭順撫の社會該 (2) 社會道鐵洲滿南の在所連大 (1)  
ルテホ和大連大の營經社會該 (4) 院醫陽遼の社會該 (3)

意するに至れり。其の奉天は、政治交通商業の中心たる上に、  
清朝の舊都にして、清朝の山陵、郊外にあり。

\*今は改築せり

南滿洲鐵道會社の施設 南滿洲鐵道は、我が國が、露國よ  
り領得したる、長春以南の鐵道と、日露戰役中、敷設したる安  
奉線とを總稱し、官民の合資に係り、資本金無慮二億圓、南滿  
洲に對する、我が活躍の動脈なり。今其の施設を擧げんに、撫  
順炭の採掘、大連埠頭の修築、各地に於ける市街旅館病院學  
校の創設等は、其の主なるものなり。其の學校中、奉天の南滿  
醫學堂は、近く開校せしものなり。

〔丙〕 清

自然地理

位置境域 本邦西隣の大國とし云はゞ、誰れか之を知ら

ざらん。げにや清國は、二河、二海、一海峽を以て、我が國の西に隣り、又南支那海、印度支那、印度、伊蘭地方(アフガニスタン)、亞細亞露西亞に接す。即ち清國は、亞細亞の東部より、遠く中部に達し、其の面積、七十萬方里を超え、實に屬地を合せたる、英露佛三國に次ぎ、滿洲支那本部、蒙古、新疆、西藏、青海の六部に分る。就中、滿洲と支那本部とは、最も重要地たり。

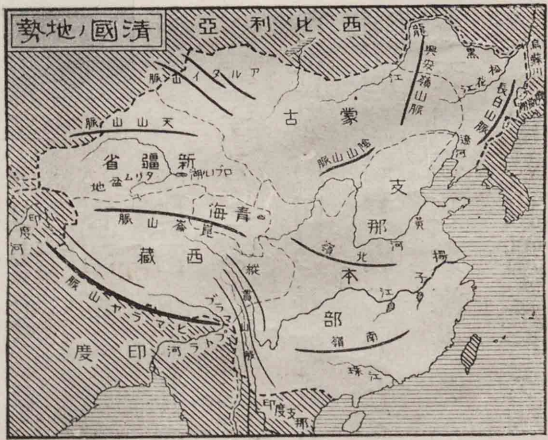
滿洲は、既に記述したるを以て、以下之を節略せん。又列強の租借地と、英葡二國の領地とは、別に之を記せり。而して支那本部は、北嶺以北(主として黄河流域)、北嶺南嶺間(主として揚子江流域)、南嶺以南(主として珠江流域)の三部、即ち北清、中清、南清に分たる、ことあり。

地勢

西境なるパミル高原を起點として、ヒマラヤ、崑崙山、縦貫(印度支那)、南嶺、北嶺、陰山、興安嶺、長白、天山、亞爾泰の諸山脈、國內又は國境を亘り、タリム盆地と、西藏、蒙古の二高原、そ

れ等の間に价在し、沿岸又は河域に、肥沃の平野あり。要するに清國たるや、其の西半は、一般に荒涼たる高地にして、西藏の如き、平均高度、一萬五千尺を算すれども、東半には、平野少なからず。

河湖中、白河は、北清の要流にして、左岸の平野に首府北京、下流に天津、河口に太沽立てり。黄河又は河は、青海地方(崑崙山脈)に發し、渭水、洛水等を容れて、渤海に注ぐ。下流は、河道屢變じ、黃海に注ぎしことあり。支那古文明の楨幹と聞きつれど、流れ早く水淺くして、舟運の便少なき上に、そが水害は、古來有名な





×待てども待ち甲斐のなき謂なり

\*烏羅江岷江嘉陵江沅江湘江漢江頓江黃埔江等

宜昌より上流は民船によりて航行す



土 黃

り。流域は、概ね黄土にして、河水常に黄濁すれば、百年黄河の清を待つゝの古語さへあり。

開封(汴) 河南(洛) 西安(長) の三舊都、河の本支流に沿へり。其の黄土は、地味よく肥えて、農耕上、肥料を要すること少なし。

揚子江(揚) 又は長江は、長さ千三百里、實に世界第四の長河なり。

西藏(崑崙) に發源して、數多の支流と、洞庭(鄱) 鄱陽二湖の水とを

容れ、東の方? 海に注ぐ。其の河口は、水天相接し、大海たるの

感あり。河口より四百餘里の宜昌まで、自由に汽船を行るべ

べく又宜昌重慶間に清國の汽船蜀通號往復し我々偶田艦も近時溯江したる増水の時は稍大なる航洋汽船漢口に至るべし



が、鎬を削ることや。珠江は、西江の下流にして、北江、東江を

合せ、海に注げり。舟運灌漑の利多く、下流に、南清の要都廣

東あり。西部の高地中には、内陸灌漑ありて、タリム河の注

げるロブノル湖や、青海など湛へり。尙ほ清國には、北極洋

印度洋に注げる河川の上流あり。

海岸は、唯、東南の二方のみ、海に沿ひ、且つ出入少なき上に、

\*イニセイ河印  
度河アラマブトラ  
河サルウイン河メ  
×揚子江口以北は

以南に比して海岸の風曲著しく少な

内陸廣大なるが故に、海岸線割合に短く、又海港の大なる者も少なし。渤海より、遼東(滿洲)山東兩半島間なる、直隸海峡を



出づれば、二海、一海峡、海東京灣相次げり。其の海灣間に、雷州半島斗出し、又當國の最大島海南浮べり。

氣候 南清は、熱帯に位するが故に、固より高温多雨なり。中清は、氣溫雨量共に適度なれども、南清と共に、夏秋の交、大風に襲はるゝこと、稀なりとせず。其の他の土地は、大陸的にして、雨量少なく、戈壁沙漠などの沙漠や草原、相亘れる處あるなり。

人文地理

産業 近世の文明的産業、十分に發展せずして、開拓の餘



阿片の原料たる罌粟畑

地甚だ多く、主に原料品粗製品を産出す。西部の高地即ち蒙古新疆西藏及び青海は、何れも、農業能く開けざれども、北清は、滿洲の如く、小麥大豆高粱を産し、中清以南は、米茶生絲棉花甘蔗さては阿片の産多し。就中米茶生絲は、産額の多きこと、世界屈指なり。米は、國內の需用を充た

×特に防穀令の除外令を設くるが又は密輸出するなり

滿洲南東部に桂蠶絲海南島に天蠶絲の産あり

すこと能はざれば、防穀令を布きて、輸出を制止し、且つ海外より輸入こそすれ、輸出すること甚だ稀少なり。茶は、露國の市場に於て勢力あれど、北米にては、日本、印度、錫蘭の産に壓倒せらる。漢口、九江、上海、福州、廈門、廣東などは、之が輸出港なり。

生絲は、産額の増加、我が國のそれの如く、ならざるのみならず、價格低廉なり。斯くて今や、輸出の數量金額共に我が國の下にあり。そが國內に於ける、取引市場の大なるものは、無錫にして、國外への重要輸出場は、上海、廣東なり。

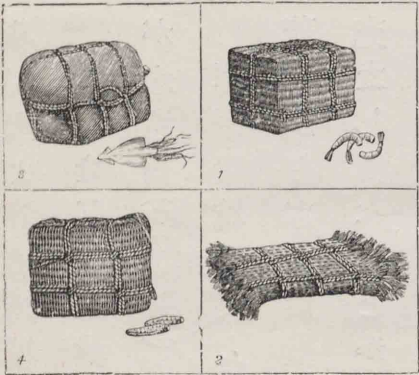
棉花は、産額世界の第五位に居り、國內の需用に應ずる外、我が國への輸出甚だ多し。阿片の栽培は、禁煙の爲、漸く衰微すべし。

蒙古新疆西藏青海即ち

西部の高地には、牛羊馬駱駝、犛牛(西藏)の飼養榮えて、遊牧半開の狀を偲ばしめ、又西藏に、特有動物麝香鹿あり。牧豚は、清國の各地、何れも盛にして、其の肉は、脂肪多き



×主に漢口よりリ  
パプーに送る明  
治四十三年に於て  
英國に輸出せしもの  
二萬四千頭分なり



物産水の出輸り我  
鼠海乾 (4) 鰻 (3) 布昆 (2) 鯨乾 (1)

ものを嗜む當國人が、缺くべからざる所、近年に至り、漢口等より、歐洲に輸出せらるゝに至れり。濫伐に加ふるに、殖林の不振を以てし、林業甚だ振はずして、唯支那本部の西境の密林、稍名あるのみ。是れ

我が國より、鐵道枕木等の材木を、輸出する所以なり。  
黃海などに、出漁盛なれども、需用多大なるが故に、古來、我が水産物(鱒、鮭、海鼠、鱈、鱈魚、鱈魚、鱈魚)の輸入多し。

江西省の萍鄉は石炭の産地にして湖南省の醴陵との間に鐵道を通じ以て漢陽の鐵政局に石炭を送るに便す

開平炭坑は、英人經營に干與し、山西省炭田は、其採掘こそ著しからざれ、炭量豊富にして、二千年間、優に世界の需用を充たし得べしとかや。我が擔保の下にある大冶鐵山は、鑛區、四万里に餘り、鑛量或は三億噸と算せられ、漢陽の鐵政局槍兵局(兵器製造所)などに、原料を供給す。我が枝光製鐵所は、今や朝鮮より、多く鐵鑛を移入すれども、尙ほ原料の大半を、此處に仰ぐが故に、石炭輸出、鐵鑛輸入の我が汽船、若松揚子江岸間を往來す。夫れ斯くの如く、鐵石炭の埋藏、無盡藏と謂つべきも、人智の進歩、交通の發達、外資の輸入等に、遺憾あるを

× 石灰窑

以て、採掘十分ならず。現に石炭の如きは、日英濠より、輸入を仰ぐこと少なからず。

生絲綿布、山東省の繭綉、杭州、蘇州、鎮江、江寧、南京、成都等の

絹布(繅子類)、漢口の製茶、九江附近の製

茶、陶磁器、徽州の墨、南昌の紙などの工

産は、古より有名なれども、こは畢竟家

內的工業に成れるに過ぎず。然るに近

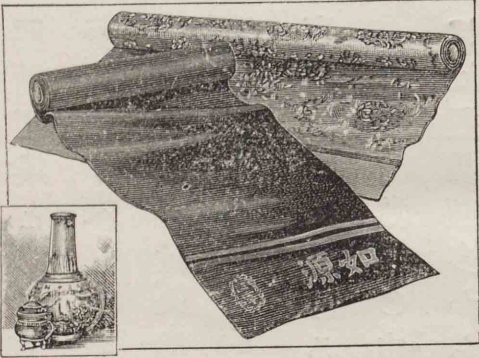
年、上海廣東地方に、機械製絲榮えて、我

が斯業者の注意を惹き、又上海などに、

綿絲紡績榮えて、日本印度の斯業、動も

すれば、困憊を招かんとす。彼の漢陽の鐵政局は、鐵鑛を大冶

骸炭を萍鄉(江西)に仰ぎ、其の規模、我が枝光製鐵所に比して、

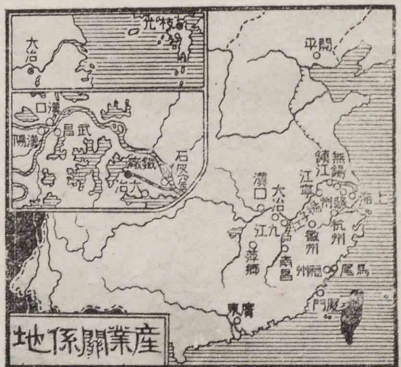


(器陶・子繅・子緞)品藝工要主の國清

× 景德鎮

× 兵器の製造亦盛なり

大なる遜色あるなく、それが製鐵は、歐洲の市場にさへ、現はるゝことあり。又文明的工業として、上海の造船は、其の隆盛、注目すべし。而して江蘇、安徽、浙江の三省地方は、米、棉花、茶の栽培と、養蠶、絹織と、併び盛にして、人口稠密を極め、實に清國に於ける、産業上の最要地たるなり。

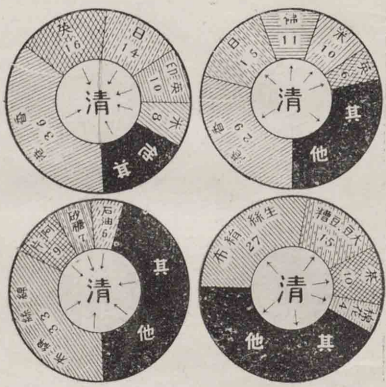


地係關業

\* 早晚金貨本位と  
ならん  
△ 北清中清南清を  
通じて旅行するも  
の、如き常に兩管  
をなさるべから  
ず

貿易 貿易の由來久しく、且つ民衆國土の多大なる割合には、貿易額多からざれども、印度に次ぎ、亞細亞第二の貿易國にして、將來の發展も、期して待つべきものあり。但し銀貨本位なると、貨幣の種類區々たると、時々非買同盟と、貨物の國內移動に課する釐金税とは、國內又は國際商業を、阻害

輸出 四、三〇〇萬圓  
輸入 五、一〇〇萬圓  
(以上は滿洲包含)



品易貿と國易貿るな要重の國清

すること大なり。産業の關係上、原料品の輸出、製造品の輸入多く、今重要なる輸出入國と、輸出入品とを、上に圖示せん。

貿易場甚だ多く、其の顯著なるものを、

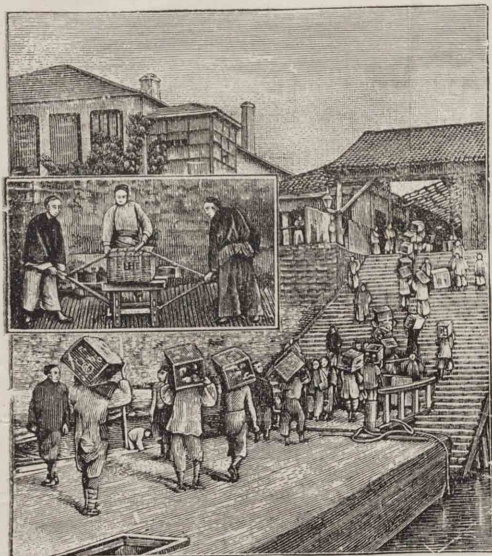
- 秦皇島 (半島、北清唯) 天津 芝罘 上海
- 海州 蘇州 江寧 漢口 沙市 重慶
- 慶福州 廈門 汕頭 廣東 亞東 賣城とす。
- 天津は、首府北京を控へ、津浦京奉の二鐵道と、白河大運



▲ 天津と南京の對岸浦口との間に敷設せらるべきもの

△吳淞江寧間の滬  
寧鐵道上海杭州間  
の杭州鐵道

\* 漢口廣東間  
漢口成都間

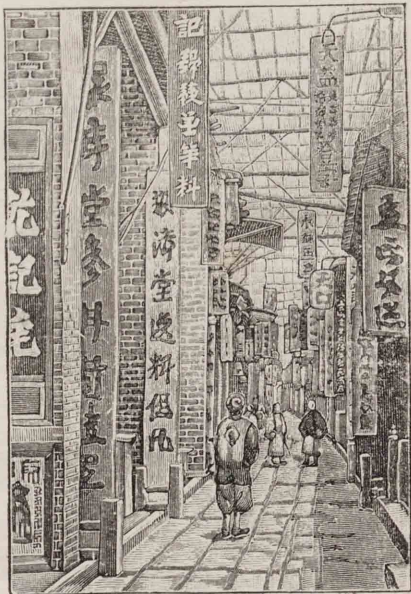


漢口に於ける茶磚の荷造りと人

河との便を併せ有し、北清第一の要港たり。但し白河は、冬季氷結するのみならず、土沙堆積して、大船は、太沽の沖合に碇泊す。上海は、黃埔江と鐵道との便を有し、東洋一の開港にして、我が大航路の汽船も多く寄港す。横濱廣東と、生絲輸出につき、鼎足の状をなし、尙ほ棉花茶の輸出も多し。漢口は、揚子江岸の大河港たる上に、京漢鐵道の南起點を占め、粵漢川漢二鐵道の豫定起點なれば、將來、大に發展すべく、茶（殊に磚茶）棉花の輸出著し。河を隔て、漢陽武昌と鼎立せり。杭州蘇州沙

揚子江岸の大河港たる上に、京漢鐵道の南起點を占め、粵漢川漢二鐵道の豫定起點なれば、將來、大に發展すべく、茶（殊に磚茶）棉花の輸出著し。河を隔て、漢陽武昌と鼎立せり。杭州蘇州沙

市重慶は、馬關條約に基づく開港なり。厦門は、臺灣海峽面の小島上に位し、臺灣と、商業上交通上の關係深く、茶の輸出多し。又海外への當國移民は、多く此處より出づと云ふ。廣



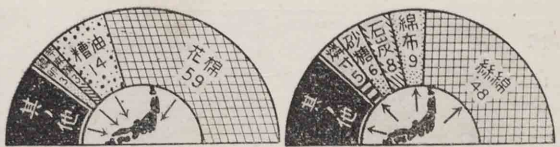
廣東の市街

東は、貿易の由來久しく、生絲絹布花筵茶を輸出して、我が同種貿易品と競争す。亞東は、西藏の南境に位し、印度との陸上貿易地なり。買賣城は、亞細亞露西亞のキアフタに接し、磚茶輸出、獸皮輸入の清露陸上貿易地なり。【日清貿易】日清間の貿易額と重要貿易品とは、之を圖示したり。但し滿洲に關するものは、便宜上之を省けり。又別に香港を經由する貿易品多しと知

\*輸出輸入を合算す

日清貿易(除滿洲)  
日本輸出八〇〇萬圓  
清國輸出六〇〇萬圓

×英國産は細絲な  
れば支那に於て我  
が國産と販路を異  
にす



日・清の重要貿易品

るべし。彼我互に、第二位の取引國にして、我が大阪神戸の二港は、此の貿易に關係深し。想うに我が貿易は、土地廣大、富源饒多、人口世界無比なる、此の西隣國に對し、層一層急速の進歩を爲さざるべからず。現時、本邦總領事館は天津、上海、漢口、廣東に、領事館は芝罘、江寧、蘇州、杭州、長沙、重慶、福州、廈門、汕頭に置かれ、本邦商務官、上海、香港(領)に駐在す。我が輸出品中、綿絲は太絲の事として、印度、清國の産と競争し、綿織物は、英國産金巾等の再輸出をも含み、播磨(飾)産の浴巾、中清以南に聲價高し、燐寸は、殆ど清國の市場を獨占して、英國斯業者の如き、相尋で破産せしも、今や清國の各所(北京、天津、漢口、成都、廣東等)に、製造せられて、滿洲以外に於ては、曩日の盛況を見ざらんとす。精糖は、瓜哇、臺灣等の粗糖を、内地にて精製せしものなり。石炭は、距離の關係上、良質なる英炭をも壓せり。清國の輸出品中、棉花は、清國輸出棉花の大部を占め、雞卵は、廉價の故を以て、我が國人の需用多し。

**交通** 道路は、僅に北清地方に於て、稍整備を認むべきの

み。中清以南は、揚子江などの水運多きも、其の他に至つては、馬背により、又駱駝を使用する處ありて、南船北馬の語、眞に吾人を欺かず。

大運河は、天津、杭州間に通じ、黃河、揚子江と交叉せり。支渠を合せば、長さ約六百五十里に達し、今尙ほ、少吃水の船舶を行るべし。それが大部は、隋煬帝が逸樂の爲、鑿ちしものと傳へらるれども、恐らくは、南清の貢米輸送の爲、開かれしものならん。海上又は揚子江の航運は、小勢力の招商局(海)あるのみなれば、日英獨佛米諾の諸船勢力を揮へり。

鐵道は、最近十年間の延長、實に目覺ましきも、憾むらくは、外國の經營又は外資に係るもの多く、且つ國土の廣大なる割合には、發達の度尙ほ尠なし。首府北京は、鐵道の會合點

京奉線は山海關に  
より關内關外二鐵  
道に分つ  
×營口滹沱子間は  
京奉線の支線  
北京より通州に至  
る鐵道あり



清國中最先敷設の  
吳淞上海間鐵道は  
東京橫濱間鐵道と  
同年に英人の手に  
成りしも清國は之  
を買収破壊して其  
の材料を臺灣に送

津濟南間開通し、獨逸の山東鐵道(青島濟南間)と接續せり。滬寧鐵道は、吳淞に起り、上海蘇州無錫鎮江を経て、明の故都江寧に達せり。又杭州鐵道は、上海杭州間に通ぜり。

商路を辿るべき、清國計畫の蒙古鐵道に連絡して、清露陸上貿易を資くるの日、蓋し遠きにあらざらむ。

津浦鐵道(天津浦口南の對岸間)は、既に天

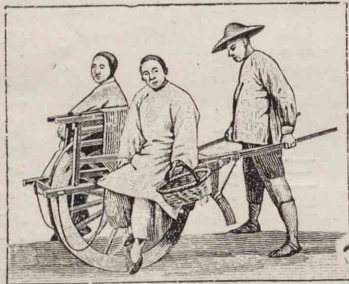
りて海中に投げ一  
八九八年更に敷設  
したり  
▲一部は既成

以上の外、清國の敷設せし、小距離の鐵道多く、川漢粵漢の  
二大鐵道も、遠からず大成せんとす。又佛領印度支那より、雲  
南と南寧Nan-ningとに來れる佛國の鐵道あり。英領緬甸Burmaより、雲南に  
通ずべき、英國の鐵道も、遠からずして成らん。

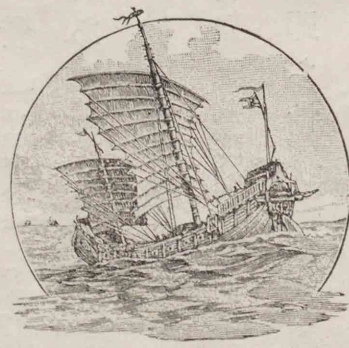
尙ほ清國には、陸上交通機關に馬車、轎、一輪車、水上交通機



(轎)一の關機通交國清



(車輪一)一の關機通交國清



(クンヤジ)一の關機通交國清

關に戎克民船シヤンクミンの類あり。其の一輪車が、帆を揚げて行くを遠



く望めば、麥隴菜畝の間なる細流を、溯る小船にさも似たりと云ふ。郵便電信電話は、未だ十分に發達せず、現に重要都市には、我が國を始め、諸外國の郵便局あり。

清國分割の徴ありし頃には、列強は、鐵道敷設權の獲得に努めしが、今は敷設資本の貸付に汲々たり。而して又、清國民中には、獨立敷設の機運盛なり。

住民

全人口、無慮四億三千萬(含滿洲)、即ち世界總人口の四分一を超え、支那本部滿洲に最も多し。何れも蒙古人種にして漢(支那本部)滿洲(北滿洲)蒙古(蒙古)土耳其(新西)藏(藏西)苗(支那本部南西)の六族に分る。最も優勢なるは、漢族と滿洲族との二つにして、官吏の登庸にも、二者の權衡を得んことに努めたり。右二族の外は、半開遊牧の民多し。



活生幕天の人古蒙

清國人は、椅子卓子(テイル)を用ゐ、履(ツガ)を穿ち、今や滿洲人の窄袖窄袴(サツシュウ)さては、辮髮(ベン)當國一般の風俗となりたり。抑も漢族は、狹義の清國人にして、全人口の九割を占む。個人主義にして、忠君愛國の念少く、舊習(依然辮髮たるは適例)に昵みて、世界の進運に後れ、排外心強し。又男子が、阿片を喫し、女子が、纏足(アン)する二大弊習あり。されど孝道を重んじ、商業道德を守り、商利に敏く、貨殖に長じ、勤儉と團結心の強固とは、世界の民族中、比類なしと稱せらる。苦力(Coolies)として、世界の到る處に移住し、其の數、一千三百萬人と

歐米人より見れば清國人の窄袖は寬袖と謂ふべし

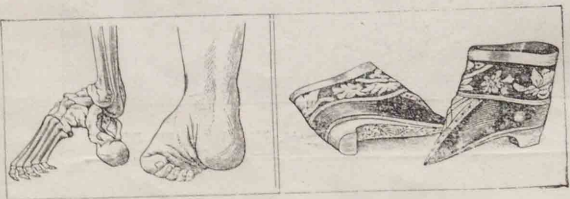


髮 辮

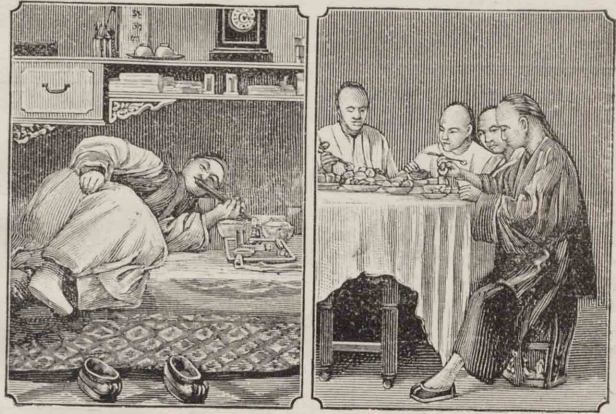
男子の喫煙女子の纏足は早晚改習せらるべし

山西廣東二省の住民最も商業に適す

形足くづ基に足纏と履の人婦族漢

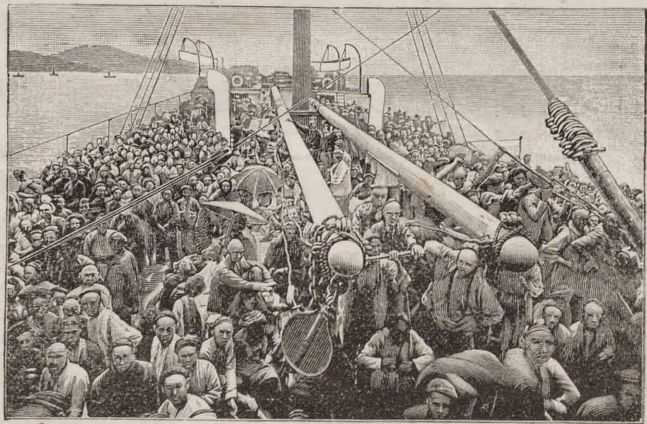


形足くづ基に足纏と履の人婦族漢



阿片を吸へる清國人

會食中の清國人



厦門より海外に移住せんとする清國人

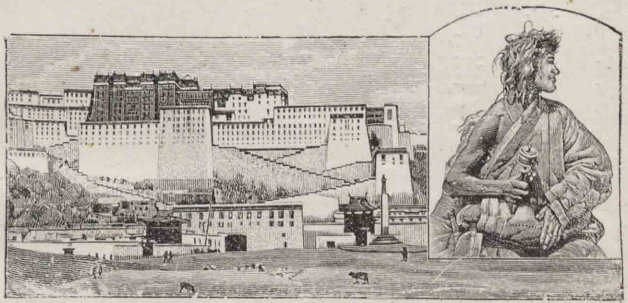
マキ内人の立  
り、日本外に  
凡俗の  
×大學は則ち北京  
にありて北京大學  
堂と稱せらる尙ほ  
膠州灣の青島附近  
に獨清大學奉天に  
我が南滿醫學堂あ  
り漢口にも英米人  
によりて大學設立  
せられんとす  
\*北京官話廣東官  
話の二種あり

算せられ、他國人士の蔑視虐待を意とせず、一に勤儉貯蓄を  
事とし、以て故國に、富裕の老後を送るは、實に彼れ等の特色  
なり。但し白人の國にては、其の移住を、嫌忌禁止する所あり。  
我が同胞は、滿洲は勿論、當國の各處に移住し、殊に福建省  
の厦門には、臺灣人(舊清)の移住多し。

○教育は、古來、官吏となるを以て、其の目的となし、只管、經詩  
の暗誦のみを力めしが、今や大中小の文明的學校を設け、日  
米等に、多く留學生を送りて、之を登用し、又多く、我が教育家  
を招聘せり。斯くて今や、實用の學、普及發達の曙光を認むる  
に至れり。上流社會は、一般に、官話を用ふれども、其の他は、  
言語區々として、疎通せざることあり。

○宗教は、一般に、儒教、道教、佛教行はれ、關羽を崇敬す。西藏

×今は清國政府の  
壓迫を受けて印度  
に逃れ居れり



喇嘛教徒と喇嘛教王の宮殿

内閣には總理大臣  
の外協理大臣あり

青海蒙古には、喇嘛教(佛敎の一派)の行はれて、僧侶多く、新疆には、回教(ムスリム)行はる。基督教は、傳來古くして、今や信徒尠なからず。山東省の曲阜(キョフ)に、儒敎祖孔子の廟墓あり。又西藏の拉薩(ラサ)に、喇嘛教王の宮殿、蒙古の庫倫(コレン)に、喇嘛教副王の宮殿あり。

政治 專制々度なれども、近く立憲制度となるべく、既に地方に諮議局、北京に資政院開かれたり。是れ憲制の準備なり。

北京は首府にして、内城外城の二つに分れ、共に當國都會の特色たる城壁を繞せり。其の内城には、中央政府各國公使館存し、外城は商業區たり。而して中央政府は、内閣十部(農務

各部大臣と共に國  
務大臣とす十部の  
外に吏部禮部あれ  
ども十部の列にあ  
らず

工學務司法度支陸軍  
海軍民政郵傳理藩)等より成れり。

地方は、直轄部(カフ)即ち滿洲支那本部新疆と、藩部即ち蒙古西藏青海とに分れ、滿洲を盛京吉林黑龍江の三省、支那本部を直隸山東山西河南陝西甘肅江蘇浙江安徽江西湖北湖南貴州四川福建廣東廣西雲南の十八省、新疆を一省とし、通じて二十二省あり。

是れ等の各省は、概ね總督巡撫等の治むる處なり。而して藩部は、理藩部に隸して、將軍又は辦事大臣之を治む。專制治下の常として、是れ等の地方官は、文武兩政を掌り、勢位甚

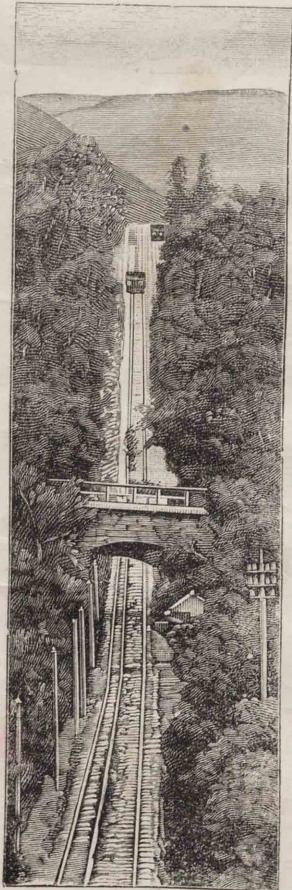




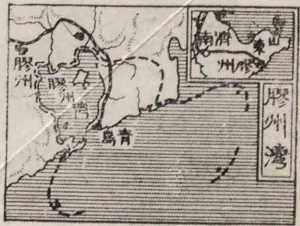
面積 三万里  
人口 三萬人

△青島附近の黒蘭  
にあるが故に清國  
人は黒蘭學堂又は  
黒蘭特別學堂と稱  
す法農工の三分科  
あり近く醫科も加  
設せられん

面積 五万里  
人口 三萬人  
×實際は島名を香  
港市街をビクトリ  
アと云ふ  
△一八四二年阿片  
戦争の結果



香港のケーブルカー



膠州灣 Kiautschau ? 半島の南岸に位し、獨國の租借  
以來、其の經營目覺まし。即ち自由港軍港たる  
青島を發達せしめて、今は獨清大學をも創立  
し、又？鐵道と連絡せる山東鐵道（終點？）を  
通じ、山東省の石炭をも採掘せり。

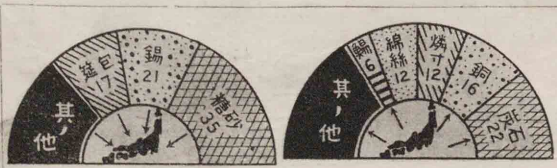
○香港 Hongkong 珠江口の東方なる、一小島上に位する自由港にし  
て、英國支那艦隊の根據地なり。英國の領有以來、經營至ら  
ざるなく、島頂に向け、鐵索鐵道さへ通ぜり。東

\*孟買カールカッタ  
歐洲濠洲南米桑港  
タコマシアトル  
日郵船  
七坂  
東洋汽船  
日香貿易  
日本輸出 三〇〇萬圓  
香港輸出 七〇萬圓

洋西洋南洋に關する通過貿易榮え、我が八大航路船を始め、  
出入船舶の數多きこと、倫敦漢堡紐育に比すべ  
く、工業（綿紡織 酒精製粉）も亦大に見るべきものあり。  
殊に其の造船は、東洋に於て、長崎上海と並び稱  
せらる。

香港よりは、我が國に向け、砂糖錫等の少輸出  
あるのみなれども、香港は、石炭銅燐寸綿絲水産  
物を始め、我が第五位の仕向地たるなり。而して  
如上の貿易品は、通過貨物多しと知るべし。

清國の直接貿易、漸く盛なる上に、廣東の繁榮、日に著しが  
らんとするが故に、香港が、今日の全盛を持續し得るや否や  
は、世の注意を惹く所なり。



品易貿要重の香・日

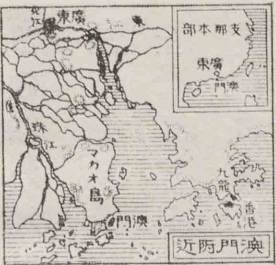
面積 三萬方里  
人口 二萬人

面積 一萬方里  
人口 六萬人

九龍半島 香港の對岸に位する、英國の租借地にして、英領九龍、其の南岸に立てり。

澳門

葡國が、東洋に活動したる遺物にして、それが繁榮は、今や全く香港に移りたり。



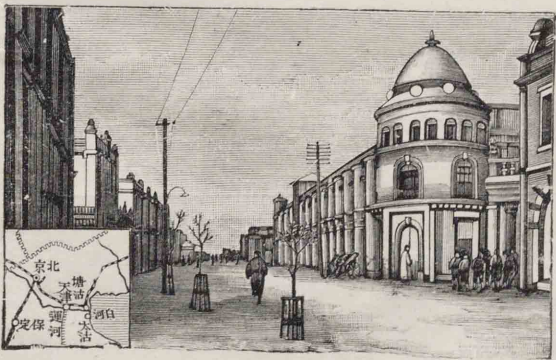
賊茲に逃入して、清、葡間の交渉屢起る。

廣州灣

Kwang-chau



？半島の東岸に位し、佛國が、雲南鐵道の敷設權を獲得せしと同時に、租借せしものなり。乃ち知るべし、南清に於



(街旭)街人本日るけに津天

面積 三萬方里  
人口 五萬人

面積 一〇〇萬方里  
人口 二〇〇萬人

カフガス (コーカシア)

高加索山脈 (コーカサス山脈)

ける、佛國活動の要地たることを。

以上の外、大なる開港開市には、外國の租界又は專管居留地と稱するものあり。我が國のそれは、天津漢口重慶沙市蘇州杭州福州廈門にありて、我が同胞の來るを待てども、天津漢口の外は、委棄せられ居るの感あり。

第二節 亞細亞露西亞

Asiatic Russia

自然地理

位置・境域 亞細亞の北部全域、即ち本洲三分一の地積を

占めて、西比利亞・中亞細亞・高加索の三部に分る。北と東と

は、大洋にして、西隣に歐羅巴露西亞、南隣に清伊蘭地方、亞細

亞土耳其あり。

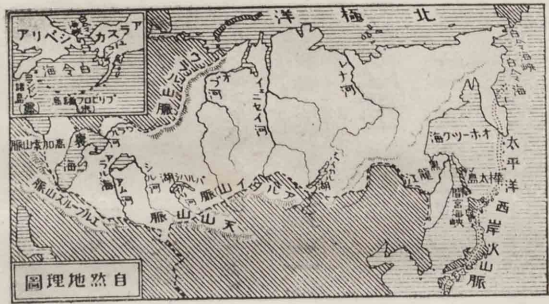
地勢 西境に烏拉爾山脈、高加索に高峻なる高加索山脈、

南境にアルタイ天山・エルブールズなどの山脈あり。其のウ

× 最高點五〇〇尺

カムチャツカ  
(カムチャツカ)

イ  
エニ  
セイ  
(イ  
エニ  
セイ)



ラル山脈は、長く南北に亘れども、低夷なる上に、山道の勾配コウパイ緩かにして、行くに、殆ど山地たるを覺えずと云ふ。乃ち知るべし、歐亞の主要限界としては、規模小にして、歐羅巴露西亞の東方經營を、殆ど妨ぐることをなきを。太平洋西岸火山脈は、カムチャツカ半島を過ぎりて、我が國に來り、以て更に南下せり。  
Kamchatka

西比利亞は、本洲第一の大平野開けて、

プ・イ・エニ・セイ・レナの三大河、洋に注ぎ、又東

の方、海峽に注ぐ黒龍江は、清國との境を

限り、二江を合す。イ・エニ・セイの一支流は

世界最深の淡水湖と稱せらるる、バイカル

に發源す。中亞細亞は、南境の外は、土地低

× 面積約三萬方里

平にして、沙漠草原遠く亘り、又廣大なる内陸灌域ありて、バルハシ、アラル裏海の三大鹹湖港へ、伊犁シル・アム・烏拉爾の内陸河あり。其の裏海は、世界第一の大湖にして、沿岸には、地中海面より低き凹窪地あり。高加索には、山脈の本支ありて、平地極めて少なし。

海岸は、出入少なき上に、氷結せざる

所稀なり。米亞兩洲間の白令海峽ベリಂಗ

り、太平洋に出づれば、白令海？半島？

海？島？海峽あり。是れ等の附近は、世

界三大漁場の一にして、沿岸の漁業權

領得以來、鱒漁に赴く本邦人多し。又白

令海は、コマンドル・プリピロフ領米二諸

\*元より禁獵地なり

熊 虎  
海峽  
海峽  
海峽  
海峽  
海峽  
海峽



棲群豹海の方地海カシリベ

\*自國領海の外は  
一切獵獲を禁止し  
日英二國は相當の  
報償を受く

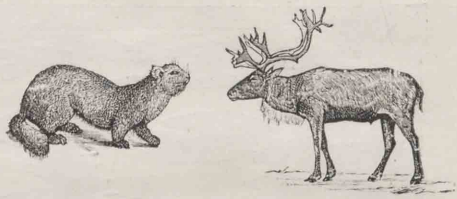
△ナナ河畔パルホ  
ヤンスク附近

人文地理

島を始め、膾炙獸等の海獸多くして、日英米露の四國民之が獵獲に従事す。殊に勇敢なる我が漁夫の活躍、目覺ましく、其の甚しきものに至つては、密獵の嫌疑を受けしものあり。近時、海獸保護の爲、右四國間に、協商締結せられたれば、白令海上に、我が漁夫の雄姿を、再び見ること能はじ。想ひ起す約十年前は、我が北方海上に、他國の獵船、横行せしに、今や全く、彼我其の地歩を代へたりしは、實に痛快に堪へざるなり。

氣候 全土一般に、寒暑の差甚し。又西比利亞の北部は、冬季長くして、寒威強烈を極め、世界最寒地の一さへあり。

産業 西比利亞は、地勢氣候等の關係によりて、大凡四帶に分る。其の山嶽帶(南東部)は、金、草原帶(南西部)は、麥類、森林帶(中部)は



貂 黒 鹿 馴

材木と、黒貂等の毛皮獸凍土帶(北)に化石象牙を産し、馴鹿牛馬犬の飼育榮え、河川には鮭鱒等多く、又東岸の漁獵盛なり。中亞細亞は、廣大なる草原地方に、牧畜盛なる外は生絲棉花の産、稍名あるのみ。高加索のバクーは、世界第二の石油産地にして、歐露に鐵道、バツームに、鐵道と石油輸送管とを通ず。亞細亞露西亞の諸鐵道は、石炭の供給、十分ならざるが故に、此處の石油を仰ぐもの多し。

貿易 石油の外、世界の市場と接觸す



布分源富の亞西亞



\*西比利亞鐵道開通以來衰頹せし蒙古鐵道支線開通の計畫あるが故に將來は益々隆盛とならん

ウラヂホストク (ウラヂホストク) 浦港敦置間の航程は約四十時間



クトスボゲラウ

るもの少なし。清國との陸上貿易は、大に注意すべきものにして、キアフタは、其の一要地なり。我が國との貿易は、國交の改善につれて、將來の發展、頗る有望なれども、今日に於ては、唯、我が果實(蜜柑)を、重要貿易品とするのみ。年により、我が食鹽、輸出せられて、我れ等の時に食ふべき、輸入鮭鱒の鹽藏に供せらる。我が國は、本邦人が、鮭漁に集合する、黑龍江下流のニコライエフスクに、領事館を置き、又浦鹽斯德に、總領事館を置けり。  
\*浦鹽斯德(東方の)は、太平洋艦隊の根據地にして、軍港と商港とを兼ね。冬季は港内氷結し、又近時、自由港制撤廢せ

×クラスノボドス

られたれども、實に本域の東門にして、我が日本海の諸港及び長崎と、航海貿易の關係深く、又長崎に、海底電線を通ぜり。  
交通 西比利亞の四大河は、冬季に、氷結の缺點こそあれ、夏季に船舶、冬季に橇を行るべし。又運河によりて、右四河を連絡し、以て歐露の河川に結合せしむべき、大計畫ありとかや。鐵道は、高加索にあるもの、外、後裏海中亞細亞西比利亞の三線あり。そも後裏海線は、裏海の東岸に起り、パミル高原に達す。裏海艦隊によりて、高加索の鐵道と、連絡するのみならず、一支線は、メルフに分れて、阿富汗斯坦の境上に達し、又他の一



橇 犬

支線は、タシケントに於て、オレンブルグ(歐)より來れる、中亞細亞鐵道と連絡せり。斯くて西藏印度伊蘭地方に、露國の勢威を揚ぐるに足る。



西比利亞鐵道の西線は、チエリアピンスクに起り、オムスクを經行、Tomsk トムスクに支線を分ち、本線は、イルクツクを過ぎ、Irkutsk 湖を迂廻し、ストレチエンスクに至り、浦鹽斯德、ハバロフスク間の東線即ち烏蘇里線と、黑龍江の水運によりて連絡す。尙ほカイダロボに起れる其の支線は、滿洲里(滿洲)に至りて、東清鐵道に連絡せり。斯くて極東露京間の往來は、海路二個月なりしもの、今や二週間内外

× 急行は十一日

× 浦港敦賀間浦港  
本國等に往來す  
\* 浦港と西比利亞  
東岸諸港との間を  
往來す

となれり。此の西比利亞鐵道は、軍事上拓植上交通上、必要なるが故に、露國は、早晚、未設部(所謂黑龍江鐵道)を完成し、且つ全線を、複線となさん。是れ我が國が、南滿洲鐵道の本線と、其の安奉支線と、朝鮮鐵道との經營いと忙はしき上に、吉長吉會二線に投資すると、好個の對照にあらずや。

海運は、義勇艦隊とゲイゼルリリング伯汽船會社との二つ、主として之に當り、又我が汽船も、浦鹽斯德と内地の諸港との間を往復せり。

住民 西比利亞は、土人(蒙古人種中のツンギス土人等)少なく、又基督教徒の歐露人の移住、年々數十萬に上るも、尙ほ人口稀疎にして、最大都イルクツクすらも、僅に八萬人あるのみ。中亞細亞は、回教徒の土耳其族多く、高加索は、高加索蒙古兩人種なる、多



高加索人

數の種族混住し、回教、基督教並び行はる。其の高加索人種中には、容貌の秀美を以て、聞ゆるものあり。

政治 概ね西比利亞は、黒龍江沿海地方、東シベリアの二總督管區と、直隸部即ち西シベリアとに分れ、中亞細亞は二個(土耳其斯坦)、高加索は一個の總督管區に屬す。又中亞細亞に、ボハラ・ヒバの二被保護國あり。而して總督は、ハバロフスク・イルクツク・オムスク・タシケント・チフリリスに駐在し、各地方の知事を指揮監督す。  
政局 露西亞は、三百年前より、漸次、西比利亞を蠶食して、遂に極東に達し、經營畫策甚だ努め、曩に滿洲に、旅順の要塞と、哈爾濱の新市街とを建設して、軍事上の根據地とせしか

中亞細亞のサマルカンドは歐亞に猛威を振ひし帖木兒の故都にして今尙

Eden. - Paradise lost. Eve

ほ其の墳墓あり

亞細亞土耳其 面積 二萬方里 人口 一八〇萬人  
亞刺比亞 面積 二萬方里 人口 一〇〇萬人

\*ノアの洪水の時 人類の祖先が漂着せし處と稱せらる エウフラト (ユーフラト) \*合流點以下はシ

ど、日本に破れし以來、イルクツクに退嬰せり。而して中亞細亞高加索は、露國が、西藏又は印度若しくは伊蘭地方等に、活動する重要地なり。

第三節 亞細亞土耳其及亞刺比亞



位置 境界 亞細亞の西部を占めて、歐羅巴に近く、又スエズ地峽によりて、亞弗利加に連り、上古史、中古史に關係多し。四圍に、波斯、高加索、黒海、ボスポロス、海峽、マルマラ海、ダダネル海峽、地中海、スエズ地峽、紅海、洋、波斯灣あり。  
地勢 亞刺比亞、小亞細亞、アルメニア等は、高原性にして、亞細亞土耳其と、波斯と、高加索との境上附近に、有名なるアラット山峙てり。雙子河なるチグリリス・エウフラトの流域即





羊山ラゴンア

荷、亞刺比亞半島は、護謨、珈琲、椰子を産す。又亞刺比亞の馬は、獨洪露等の駿馬の原産にして、駱駝は、隊商の必要物たり。彼のアンゴラ山羊は、實に土領の原産なり。

Angora

交通

獨逸の鐵道は、スクタリ附近より起り、亞細亞土耳其第一の要津、即ちスミルナに起れる鐵道など、會し、將にバグダードに達せんとす。之に連絡して、波斯灣岸に至るべき、英獨佛露土の五國共同の鐵道も亦、早晚敷設せらるべし。若し此の二鐵道完成せんか、印度以西の亞細亞に對する、蘇士運河の價值減少せん。

ムハメットの枢地メデナ、基督の枢地イエルサレムには、地中海岸より來る鐵道ありて、回教徒又は基督教徒の禮拜に便

\*蓋しクイエトならん

×メアナに至る鐵道はシリアのアレツポに起り南して地中海岸に起る二條の鐵道と接續す

イエルサレム (エルサレム)

ず。尙ほムハメットの誕生地たるメッカには、回教徒の來往繁く、基督の誕生地たるベテレヘムには、基督教徒の來往亦しげし。

英領部の亞丁は、紅海の南門に近く位して、東西交通の要衝を占め、好箇の貯炭所たり。土地瘦瘠にして、飲料水乏しきに拘らず、英國が之を領有すること、豈に偶然ならんや。而して英國海軍の一根據地たり。

希臘は、小亞細亞沿岸に於ける、通商航海上の勢力、甚だ大にして、古希臘の全盛を偲ばしむ。

住民 北部には土耳其族多く、又南部にはアラブ族(高加索)多く



人アビラア

耶田 卷  
 全神 後言  
 子に神 後言  
 改 後言  
 一五 節

×紀元前二千年頃  
 猶太人がメソポタ  
 ミア平原より地中海  
 沿のバレスチナ  
 に移住し來りし當  
 時既に信奉せし一  
 神教なり  
 △紀元一世紀初に  
 耶穌基督の開きし  
 一神教  
 ▲紀元六百二十年  
 頃ムハメッドの新  
 に唱道せし一神教

面積 一七萬方里  
 人口 一五〇萬人

亞細亞洲 各説 亞細亞土耳其及亞刺比亞 伊蘭地方

して、一般に回教行はる。而して本域は、一神教の三種、即ち猶  
 太教<sup>△</sup>基督教<sup>△</sup>回教の起源地なり。

○政局 土領は、亞刺比亞半島の東西兩側をも含みて、地積  
 廣大なれども、其の北部は、露國の威壓加はれる上に、獨國の  
 勢力も、亦將に増進せんとす。英國は、亞刺比亞半島の南西  
 部と、<sup>Omran</sup>島とを領し、尙ほオマーン國をも保護す。亞刺比亞  
 半島の内部には、數多の酋長ありて、各部落を指揮す。

第四節 伊蘭地方

自然地理

? 灣と亞刺比亞海とに臨み、清印度亞細亞露西亞亞細亞  
 土耳其に接し、域内に、波斯<sup>ア</sup>阿富汗<sup>ア</sup>斯坦<sup>ア</sup>俾路<sup>ア</sup>芝<sup>ア</sup>斯坦<sup>ア</sup>あり。ヒン  
 ツークシ<sup>Ethuz</sup>・エルブールズ<sup>Iran</sup>の二山脈など相互り、大部は、高原性

にして、酷熱少雨の沙漠多く、内陸灌域亦少なからず。

人文地理

地勢地質氣候等の關係上、産業交通共に發達せず。住民

は、高加索人種中のイラニア族に  
 して、普く回教を奉ず。古文明の開  
 けし地方に似もやらず、文化の度  
 低くして、遊牧を事とする者多し。

英領俾路芝斯坦には、ケラット等  
 の酋長多し。阿富汗斯坦は、專制君  
 主國にして、首府をカブールとし、  
 波斯は、立憲君主國にして、首府を  
 テヘランとす。英露ことに英國



×純然たる英領は  
 北東部に於てケタ  
 に政治の中心あり  
 其の他は英國の保  
 護を受ける諸部に  
 してケラット在住  
 の酋長に屬する部  
 落最も勢力あり  
 \*カブールの王以  
 外に酋長を戴く部  
 落あり

亞細亞洲 各説 伊蘭地方

の勢力大なる上に、波斯には、獨逸の新勢力も、亦將に加はらんとす。而して日英同盟の範圍は、此の伊蘭地方にも及べるなり。

第五節 印度附錫蘭

自然地理

位置境域 亞細亞大陸の南部に位し、ベルガル灣、海に圍まる、半島部と、大陸部とより成り、伊蘭地方清印度支那と相接す。

地勢 域内を大別すれば、略喜馬拉耶山地、印度平原、デカン高原の三部となすべし。

峰エベレスト(二萬九千尺)を始め、高峰峻嶺多くして、氷河、其の谿

△面積 一五萬方里  
△人口 一億五千萬人  
▲面積 一〇〇〇方里  
▲人口 一〇〇萬人  
下記の印度は、緬甸を含み、伊蘭地方の英領を省けり

×ダーヰリンは、西藏に入る要路に當れり

間を流る。

印度平原は、ヒマラヤの氷河に發源する、恒、ブラマプロトラ、印度三大河の流域に屬す。其の恒、ブラマプロトラ二河は、雙子系をなすのみならず、そが下流には、印度河のそれと共に、三角洲よく發達せり。

デカン高原は、本域中の半島部に位し、東ガッツ、西ガッツの兩山脈に圍まる。

以上の外、緬甸には、サルウィン、イラワヂの二河南流して、平野を開けり。此の平野は、印度に於ける米産地の一なり。海



マレーヤ(ビルマ)

ガンガ (カンジス) インドス (インダス)

岸は、屈曲少なく、南海上に、錫蘭島浮べり。

氣候 一般に酷熱多濕にして、中にも印度平原最も然り。

夏季は、南西季候風發達し、濕熱殊に甚しくし

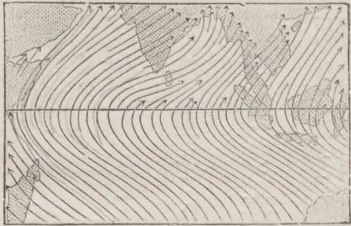
て、疫癘人を襲ふが故に、商工の衰頹著しく、カ

ルカッタ所在の總督廳を始めとして、爽涼なる

ヒマラヤ山地に、避くる者多し。而してアサム

地方は、世界の最多雨地とす。但し印度の飢饉

の順を失するかに原因す。氣候強熱、シムラ



印度洋上に於ける西南季候風の發達

人文地理

産業 高地には、チーク・バンヤン樹鬱茂

し、猛獸毒蛇、其の間に棲息して、人畜を害す



毒蛇一種(ラアコ)

コアラ即ち眼鏡蛇は恐るべき毒蛇なり但し人に馴れ易し

總督廳の移轉地はシムラ

常綠樹 シンコナの樹皮より製せられ解熱及健胃の藥劑たりシンコナの名は蘭人のシンコナが間歇熱の解熱に幾那を使用したるに因むといふ

ランゲン (ランゲーン)

ること稀ならず。印度平原は、西部にこそ沙漠あれ、其の他は、

米・小麥・茶・甘蔗・黃麻・木藍・棉花・阿片の産多し、是れデカン高原

の棉花・珈琲・幾那・錫蘭の茶・肉桂

と相待ちて、印度が、英國の一大

寶庫、世界屈指の農業地たる所

以なり。其の米は、パトナ産の品

質、世に聞ゆれど、緬甸即ちサル

ウイン・イテラワチ二河の下流地方

を、其の主産地とし、蘭貢より多く輸出して、

蘭貢米の名あり。近年開始せられし、我が

カルカッタ航路船が、蘭貢に寄港するは、一は、米の積み出しあり

ればなり。小麥は、主として、北西部に多く産し、印度河口の



肉桂樹

幾那供するシコナ

Cobra 又名 Rattle Snake



△但し輸入精糖少  
なからず  
×絨緞及び印度輸  
出棉花の包装にて  
も其の製品を見る  
べし

カラチより輸出せられ、歐洲の市場に於て、米露などの産と、  
魚逐<sup>サツ</sup>すべき勢力を有す。茶も亦、清日の産を、加拿<sup>カナ</sup>陀<sup>ダ</sup>及び米國  
の市場より、驅逐せんとす。而して印度錫蘭の茶商は、米加の  
住民と、同文同種族同風俗なるを以て、市場の開拓に、一段の  
便宜を有するなり。甘蔗は、之を注意する者少なしと雖、其  
の實、地味風土の關係上、世界有數の産出額あるもの、如し。  
黄<sup>ワウ</sup>麻<sup>マ</sup>の産額、實に世界第一にして、米袋、ズック等により、我れ  
等の能く知れるもの。首府カルカッタは、其の紡織甚だ盛なり。  
他の麻類即ち大麻<sup>アマ</sup>、亞麻<sup>アサ</sup>、苧麻<sup>ソウマ</sup>等に比し、品質粗醜なれども、強  
靱<sup>ツツ</sup>の特性を有するが故に、他の麻類を混用して、諸般の日用  
品を作るべし。彼の滿洲大豆を盛る、<sup>イ</sup>麻袋<sup>ガンニハツ</sup>は、其の製品の  
一にして、我が國より、關東州に再輸出をなす。



樹ンヤンバ



大<sup>ダイ</sup>麻<sup>マ</sup>      亞<sup>ア</sup>麻<sup>マ</sup>      黄<sup>ワウ</sup>麻<sup>マ</sup>      苧<sup>ソウ</sup>麻<sup>マ</sup>

大麻は、露國を主産地とし、我が國にては、  
二縣に其の産多し。

亞麻は、露國、白國、英、吉  
利の愛耳蘭に多く産  
す。我が國にては、北海  
道に栽培せり。

黄麻は、世界中、印度を  
以て、殆ど唯一の産地  
となすなり。

苧麻は、多く清國に産  
す。我が國に於ても、路  
傍に多く野生のもの  
を見る。新潟、沖繩二縣  
の上布の如き、之を以  
て作る。

×獨逸等のアニリンの影響をも受く



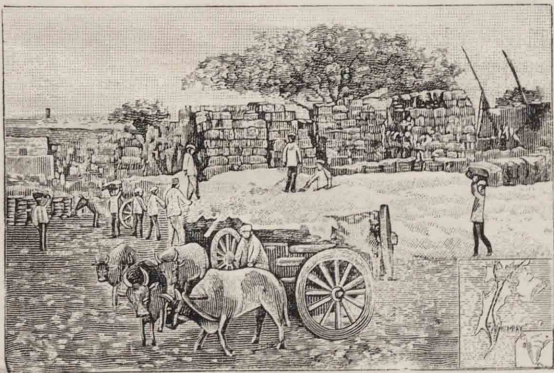
藍 木

×木藍は、獨逸の人造藍の爲、阿片(主  
地はパト)は、清國への輸出漸減の爲、今  
や共に、増産の見込なきに至りて、右  
二者の栽培業者は、他に轉業するも

の多し。棉花は、米茶と共に、其の産



額、世界屈指にして、  
我が郵船  
會社の汽  
船が、孟買  
ツチコリ  
Tuticoria  
ン古倫母  
Colombo

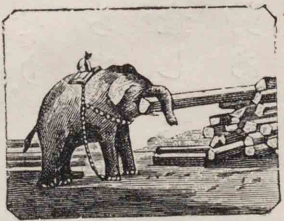


イ ベ ン ボ

×移住の白人、牛乳、牛肉、印度人が牛乳を用ふるも亦一原因たり

に赴くは、主として、之が積出の爲たるなり。

印度教徒は、肉食せざれども、農業、運搬等に  
必要なる爲、牧牛頭数は、實に世界の首位を占  
め、又象を、乗駄耕耘の用に供すること盛なり。  
鑛業は、盛大なりと謂ふべからざるも、尙ほ



象の使 用

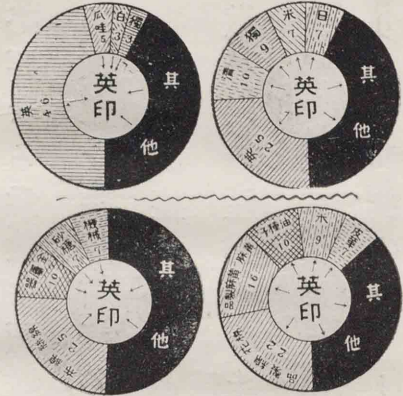
鐵石炭の産稍、多き上に、錫蘭には、紅寶石の産あり。又錫蘭と  
半島部との間には、珊瑚礁點布して、所謂アダム橋を形成せ  
り。其の西側のマナール灣は、眞珠の産の多きこと、世界第一  
と稱せらる。  
Manaar  
Adams Bridge

今や工業の勃興、亞細亞に於て、我が國と好一對なり。就中  
綿絲紡績は、孟買附近に榮え、其の製品太絲なれば、清國の市  
場に於て、我が綿絲と角逐し、清國への輸出額、我が國のそれ

に約二倍す。彼のカシミヤ織は、カシミル地方に於て、仔山羊の下毛にて、作らるゝものなり。但し高價なるが故に、歐洲の摸造品、却つて輸入せらるると云ふ。黄麻紡織地？

貿易

貿易額、割合に少なきも、人口多大、農産豊富なれば、尙ほ亞細亞洲の第一位を占むる上に、前途の發展も、期して待つべきものあり。其の重要輸出入の國別と品目とは、之を上圖に圖示せり。獨逸は、其の貿易額、未だ多からざれども、各民族の風俗習慣を精査して、印度に於ける、英國品の市場を、漸次蠶食せんとする勢あり。貿易港は、カルカッタ、孟買を主とし、其の他に、マドラス、カラ



品易貿と國易貿るな要重の度印

×印度族が祭日の前後に於て需用品の變更多寡を來すを知るが如し

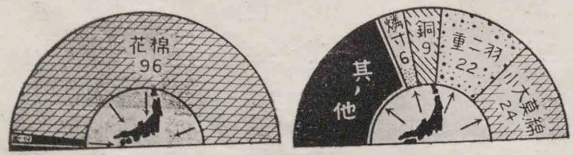
チ古倫母などあり。其の古倫母は、港灣の人工的設備、宏大にして、東西洋交通の要津なり。

【日印貿易】

日印貿易は、今や我が朝野に於て、大に注目せらるゝに至れり。本邦よりの輸出品は、綿莫、大小(衣肌)羽二重、銅燐寸、石炭、樟腦等に於て、其の綿莫大小は、廉價なるの故を以て、英獨の産を壓倒し、羽二重は、在印英國人に用ゐらるゝ外、印度人の纏頭用となり、石炭と燐寸とは、廉價なるの故を以て、良質なる英炭、瑞典燐寸と角逐し、樟腦は、セルロイドの原料たらず、香料として使用せらる。印度よりの重要輸出品は、棉花と米との二つにして、印度の輸出棉花の一半は、實に我が國に仕向けらる。斯くて印度は、今や我が第一位の輸入國たるに至れり。我が國は、カルカッタに總領事館、孟買に領事館を置けり。

交通

三大河と、それを連絡する運河と、三萬餘哩、即ち延長亞細亞洲第一の鐵道とは、大に交通の便を與へ、又



品易貿要重の印・日

鐵道  
東印度綿  
印度半島綿  
孟買線  
孟買ヨリ  
マドラス迄  
カラカッタヨリ  
コロンボヨリ  
アラン、ドンドヨリ  
孟買迄  
孟買ヨリ  
マドラス迄  
カラカッタヨリ  
コロンボヨリ

蘭貢に起り、北の方マングレを過ぎれる鐵道は、早晚清國の雲南に通ぜん。海運は、日英獨等の汽船、印度と極東又は西

孟買航路 神戶門司上海香港  
新嘉坡南古倫母孟買  
但し門司上海は往航の時のみ寄港す。復航の時は古倫母に代ふるに、ツチコリンを以てすることあり。又往航の際、時にマドラスに寄港することあり。  
カルカッタ航路 神戶門司香港  
新嘉坡南蘭貢、カルカッタ

開始せられたるありて、大に我れ等の人意を強ふするものあり。

住民 全人口約三億、即ち住民の多きこと、清國に次げり。佛教徒の緬甸族、回教徒のアラブ族、土耳其族、基督教徒

×錫蘭には佛教行はる

の英國人等あれど、大部は印度族にして、印度教の靈場にして、參拜の信徒は、同河に入りて齋戒沐浴し、毎年ササキの禮拜者、無慮三百萬人を算す。其の東方のブダガヤは、佛教の開祖たる釋迦牟尼の悟道の地として、そが遺跡多し。其の佛教は、印度に起り、印度の文明と共に、支那日本等に傳播せ



印度人とのスナ殿の堂

トミライアン族  
ヒンマ族  
印度教 三億の1/4  
回教 六千万人  
佛教 三千万人  
基督教徒 三百萬人  
釋迦牟尼 隆誑地圖



亞細亞洲 各説 印度附錫蘭

釋迦牟尼

Admiral  
 Admiral - 大將  
 Vice admiral - 中將

Governor-general  
 Viceroy 佛領 葡領

ガウ  
 ダマン  
 コア  
 カカル  
 ホンガイ  
 ヤナオン  
 アエ  
 マヤン  
 藩部  
 カン  
 ラ  
 マ  
 ハ  
 佛領もあり

しも、今や本域内に於ては、緬甸錫蘭に於て、之を奉ずる者あるのみ。

政治 英吉利國王は、印度帝國の皇帝を兼ね、其の戴冠式は、德里に於て、行はるゝものとす。皇帝親任の印度總督、<sup>Dalhousie</sup>に駐在して、文武の大權を握れり。尙ほ本域内には、ヒマラヤ山中のネパール、<sup>Nepal</sup>ブータンを始め、英國の保護を受くる藩部、甚だ多し。而して錫蘭は、英國植民省の直轄に屬す。

政局 印度は、古文明國の一にして、又五十餘年前までは、德里を首都とせし、<sup>Mughal</sup>莫臥兒帝國ありたり。航海發見時代以後、漸く、歐洲諸國に蠶食せられしが、今や葡領ゴアの如き、小區域を除き、大部は、英領となれり。されど、諸藩の心服常ならずして、動もすれば、露國の覬覦を招かんとす。宜なる哉、日

面積 八萬方里  
 人口 二萬萬人

英同盟の範域が、此の地方をも含めることや。

第六節 印度支那 <sup>Indo-China</sup>

位置境域 亞細亞大陸の南東部、即ち海灣間の半島にして、清印度に境を接し、中に、獨立國暹羅と、英領海峽植民地と、佛領印度支那とあり。地形上よりせば、印度の緬甸も、亦本域に含まるゝものとす。

地勢 數條の縱貫山脈縱走して、東京、<sup>Yunnan</sup>暹羅、<sup>Siam</sup>南三河の縱谷を開き、一支長く延びて、馬來半島となり、スマトラ、<sup>Malacca</sup>島との間に、馬刺加海峽を挾む。海岸の出入少なく、東京、暹羅二灣の彎入、著しきのみ。

氣候 熱帶に位するが故に、一般に酷熱多濕なり。季節は、

季候風の影響により、乾濕二季あるのみ。

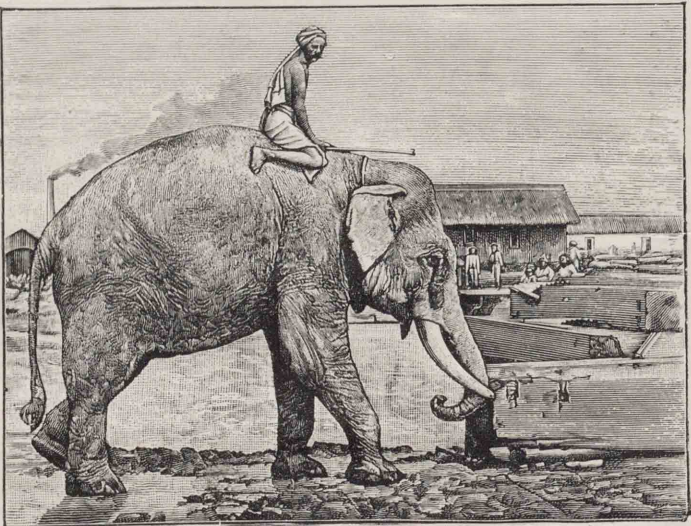
人文地理

産業 氣候の關係上、植物能く生育す。即ち北部山地は、チ  
 ンクの産多く、三河の下流地方は、米の産多し。其の米は、緬甸  
 産と共に、我が國に多く來りて、俗に南京米と稱せらる。又佛  
 領には、棉花の産多し。英領の馬來聯邦は、世界第一の錫産地  
 たる上に、近年に至り、護謨樹  
 の栽培、頓に榮えて、斯業に成  
 功せる日本人あり。又日本人  
 にして、暹羅に棉花栽培を企  
 つるものあり。暹羅は、耕作  
 運搬用として、象を飼養し、國

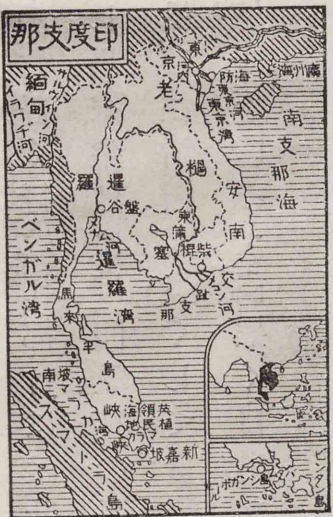


收採護謨と林殖護謨  
 (漏の液はるく傷を皮樹に斜  
 法取採の近最きべぐ防を出)

Federated Malay States



役使の象



旗貨幣にも、それを紋章とせり。  
 貿易交通 暹羅と佛領と  
 の米チーク、英領の錫護謨は、  
 重要輸出品なり。新嘉坡島  
 の新嘉坡は、東洋西洋南洋交  
 通の要衝に當りて、通過貿易榮え、  
 坡南島の坡南と共に、我が  
 郵船會社の孟買歐洲カルカッタの三航路船寄港す。佛領交

趾支那シオンの柴棍シオンは、佛領の一要津にして、所謂柴棍米の輸出多し。佛領部の海防フンより、首府河内ハノイを経て、南寧ナムニンと雲南ユンナンとに至れる鐵道は、政治上交通上、大に注意すべきものなり。

【日本との貿易】 上述の重要輸出品は、何れも我が國に輸出せられ、我が國よりは、暹羅に羽二重、英領海峽植民地に綿製品（浴布縮莫）、石炭、燐寸、人力車、佛領印度支那に石炭を輸出す。而して我が國は、領事館を、盤谷バンコク、新嘉坡の二地に置けり。

住民 印度支那族（蒙古）多く、佛教普く行はれ、都會には、壯麗なる寺院、存するものあり。但し馬來半島には、回教徒の馬來族あり。新嘉坡盤谷などには、移住清國人多くして、實業上の勢力大なり。暹羅人は、檳榔子（ココ）を嚙みて、齒黒く口臭きを以て著はる。

南清より本城及び馬來諸島に亘りては往々水上家屋を營み又船住ひなすもの少なからず  
× 柴棍盤谷の精米業が概し清國人の經營に係るは其の一例なり

\* 英佛協商により沿海地と南河以西とは英國其の他は佛國の勢力範圍となれり

### 政局

暹羅は、山田長政の故事を以て、邦人の能く知れる處、專制君主國にして、近時、日英等により、文明に浴せんとす。英佛の勢力大にして、國土は漸く縮小し、又チーク伐採業の如きも、英人の掌中にあり。但し財政は、弱小國の割合には、餘裕あり。湄南下流の首府盤谷に、我が公使館設けらる。英領海峽植民地は、新嘉坡、島坡、南島、馬刺加等と、馬來人の組織せる馬來聯邦とより成れり。佛領印度支那は、租借地？と相待つて、東洋に對する、佛國活動の根據地なり。日佛の協商によりて、漸く佛蘭西の安堵せし所、佛國官民の投資多し。河三角洲上の柴棍に海軍根據地、河三角洲上の河内に總督府を置く。域内は、五部に分れ、其の東京、交趾支那を除き、他の老樁安南、柬埔寨は、被保護國なり。

順化は安南、アナン、バンは東蒲塞の王都なり

面積 二萬方里  
人口 四〇〇萬八

### 第七節 馬來諸島 Malay Archipelago

#### 自然地理

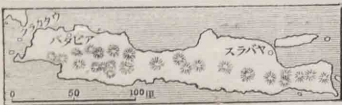
**位置境域** 馬來諸島は、東印度諸島又はマライシア（馬來住地）とも稱せられ、我が臺灣の南、即ち亞細亞大陸の南東海上に位して、太平洋印度兩洋間に在し、濠太刺利に渡る橋梁に似たり。域内を、米領比津賓諸島、英蘭分領のボルネオ島、蘭領のセレベス島、モルッカ諸島、スンダ列島、スマトラ島、瓜哇島、チモール島などに分つ。就中蘭領は、實に全面積の四分三（本國の）に餘れり。ロンボク海

\* 東半は葡領



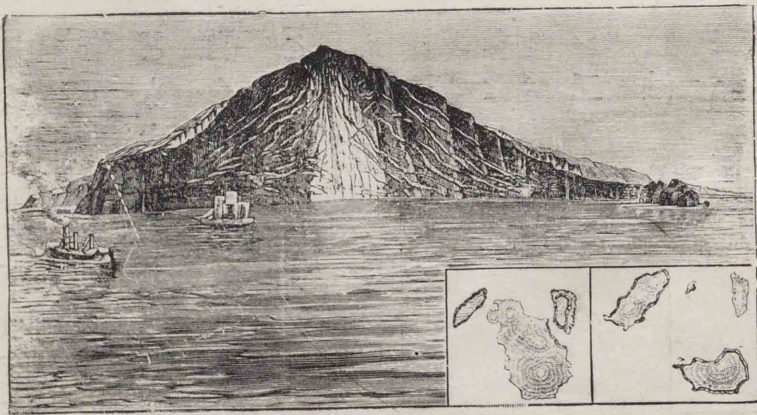
\* 生物分布の發見者の名に因みウリス線と稱す

\* 百以上に及べり



布分の山火の島パツ

峽と、ヒレベス海とを繋ぎて、一線を描かんか、其の左右兩側は、海底の深淺、生物の分布、著しく相異なるが故に、之を亞細亞洲と濠太刺利との境界となす者あり。**地勢** 域内、山嶽多く、地皮罅裂に富みて、地震屢起り、又太平洋西岸火山脈之に通じて、火山の噴出稀ならず、就中瓜哇島は、火山の多きこと、世界無比なり。スンダ海峽のクラカタウ島は、明治十六年前代未聞の爆發を爲して、島の三



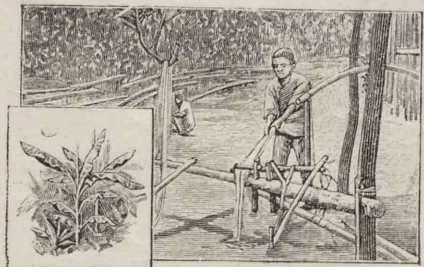
遷變の形地の後前發爆がそと形島のウタカラク



分二を失ひ、地球上の空氣を混濁し、且つ太平洋・大西印度三洋に津浪を起せり。  
氣候 海洋の影響固より大なれども、土地の全部、熱帯に位するが故に、高温多濕にして、植物能く生育す。又夏秋の交、暴風、東方海上に起り、我が國に及ぶこと稀ならず。

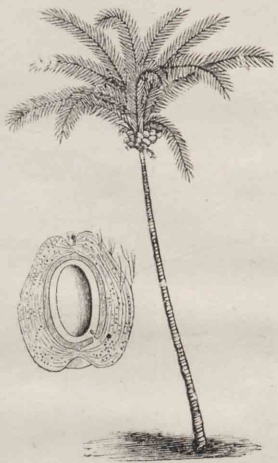
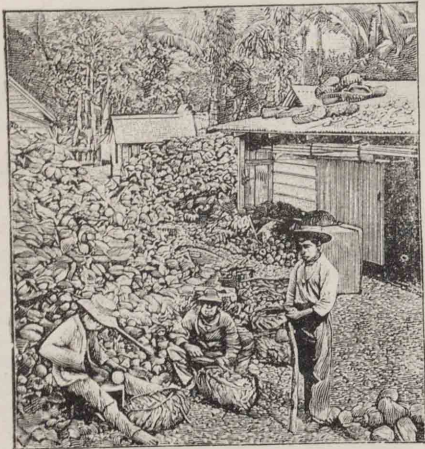
人文地理

産業 米領は砂糖、馬尼刺麻、馬尼刺煙草、コプラ、ボルネオ島は西穀米、瑪瑙、燕窩、金、スマトラ島は石油、バンカブリツン二島は錫を産す。瓜哇島は開拓能く行はれて、人口稠密、米、茶、甘蔗、糖、珈琲、胡椒、幾那の産多く、實に母國和蘭の寶庫なり。其の



し晒の其と麻ラニマ

× 狸々象棲息す近海  
のラブアン島に石炭の産あり  
\* ランカトを主産地とし、ボルネオ島、シアパ島にも産す



狀るす取採なラブコリよ實の其と子椰ココ  
(りな料原のタバ造擬び及鹼石は子椰乾ち即ラブコ)



サゴ米は、主に葉子の製造に使用するものとす。

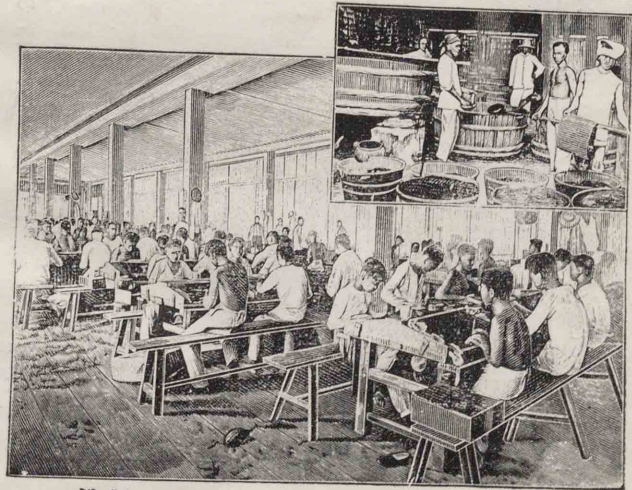
サゴ椰子樹の髓は、頗る澱粉に富めるが故に、之を打ちくだきて、サゴ米を製す。

樹子椰ゴサ



飛燕窩と珊瑚

(高燕窩の一種は岩壁に海草を塗り付けて作り出す。透明な原料の甲殻は珊瑚)



マニラの粗糖製造とマニラの草煙製造

幾那甘蔗糖は、産額世界屈指なり。モ  
ルッカ諸島は、肉豆蔻、丁香等の香料の産  
多ければ、香料諸島の名あり。  
Spice Islands

貿易交通 航海発見時代以後、長く

歐洲への物資供給地なりしかど、今や  
世界の貿易に於て、古の如き、重要な  
地歩を占めず。比律賓諸島中の最大島呂宋に、馬尼刺あり。

又瓜哇島に、バタビア、スラバヤあり。共に貿易交通上、重要な  
地なり。其の馬尼刺は、太平洋横断の海底電線と、香港に通ず

る海底電線との接續點にして、バタビアと共に、我が濠洲航  
路船の寄港地、本邦領事館の所在地なり。

【日本との貿易】 日比貿易は、我が石炭綿製品、彼れの麻砂糖、稍、重要貿易品



丁香と肉豆蔻



胡椒

× 桑港、ホノル、ミ  
ツドゥエ、島、ア  
ム島、馬尼刺、間、通  
じ、アム島より、其  
の支線、小笠原島に  
来れり

×バクー産と共に  
ロスタフアイド家  
を後援として以て  
ロツクフエラー統  
率の下にある米油  
と日本清印度等  
に於て角逐す而し  
て米油はトラス  
組織のスタンダー  
ド石油會社今や解  
散を命ぜられたれ  
ば今後如何になり  
行くべきか注意に  
値す  
\*カピア

たるのみ。蘭領印度に至つては、粗糖石油の輸出莫大にして、我が國よりの輸出（石炭、綿製品）額に四倍す。其の粗糖は、我が國に於て精製せられ朝鮮清に移輸せらるゝもの多し。但し臺灣の糖業は、やがて蘭糖の輸入を杜絶せん。石油は、則ち日出印（マラヤ、スマタラ）にして、往々米油と競争し、我が石油業者をして困憊せしむ。  
住民 回教徒の馬來族最も多く、清國人之に次ぐ。白人は、植民の由來上、比律賓諸島に西班牙人、其の他に蘭人多し。  
政局 米國は、近年（明治三）西班牙を破りて、比律賓を領し、馬尼刺に總督府、其の附近に、太平洋艦隊の根據地を置き、早晩、自治制を布かんとす。蘭領部は、新ギネア島（大洋）の西半を併せて、蘭領東印度と稱し、バタビヤに總督府を置けり。夫れ馬來諸島は、我が南隣の地にして、古來、彼我の關係深きにあらずや。されば我が國は、通商等をして、層一層緊密ならし

めざるべからず。

## 第二章 總説

### 第一節 自然地理

位置境域 亞細亞洲は、東半球の北東部に位置し、面積二百九十萬方里、即ち世界陸土の三分一に居り、世界人口の大半こゝに生息す。西の方、歐羅巴洲と合して、ユーラシアと稱せられ、大洋を隔て、南北亞米利加洲、大洋洲に、一地峽と？海とによりて、亞弗利加洲に隣り、一山脈、一大湖、大小の海灣、二海峽、等によりて、歐羅巴洲と相連り、南は？洋に面せり。



六大洲の大小比較の概要

地勢

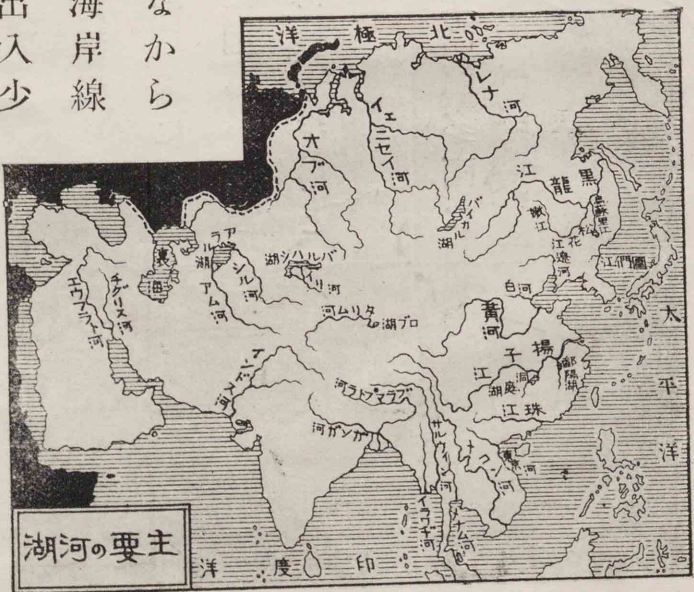
本洲の略中央部なるパミル高原を中樞として、山脈四方に走れり。東派は、山脈にして、餘脈は、縦貫(支那)陰山、北嶺、興安嶺の諸山脈となれり。別に、支那本部の南部に、南嶺山脈あり。北東派に二大山脈、南東派に、規模世界第一の大山脈、西派に三山脈、相亘れり。又別に、太平洋西岸火山脈、東部を通せり。高原、處々に散在し、其の高原中には、沙漠を擁するものあり。又平原、處々に散在し、内地灌漑、遠く相亘れる地方あり。著大なる淡水湖、少なきも、鹹湖には、世界第一の大湖、たるものさへあり。

河川は、北極洋面を流るゝ者と、太平洋面を流るゝ者と、印度洋面を流るゝ者と、内地灌漑を流るゝ者とありて、雙子系を爲す者、甚だ多し。本洲の諸河は、交通灌漑の利あるもの

×歐羅巴北亞米利加二洲の概説も下

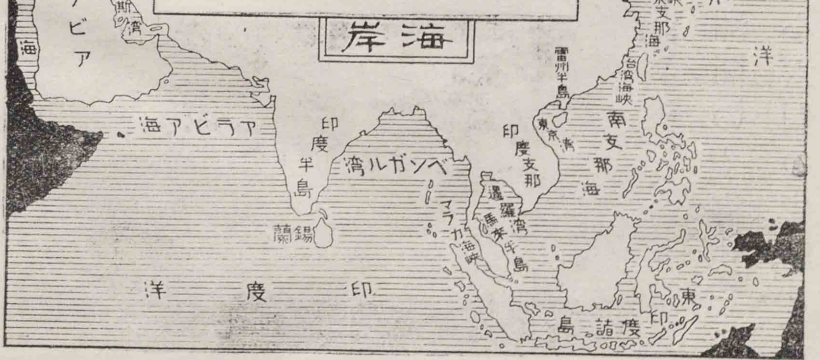
少なきも、太平洋、印度二洋に注げるそれ等には、古文明の搖籃たるものあり。湖沼の有名なるものは、鹹水湖五個、淡水湖四個あり。

本洲の四邊中、海に沿はざるは、唯、一方の一邊あるのみにして、岬灣、島嶼、亦、少なからざれども、内陸廣大なれば、海岸線割合に、少なし。北極洋は、出入少なき上に、終年殆ど氷結す。之より、米亞二洲間の、海峽を過ぎて、太平洋に出づれば、既習のものに、大小六個の半島と、一

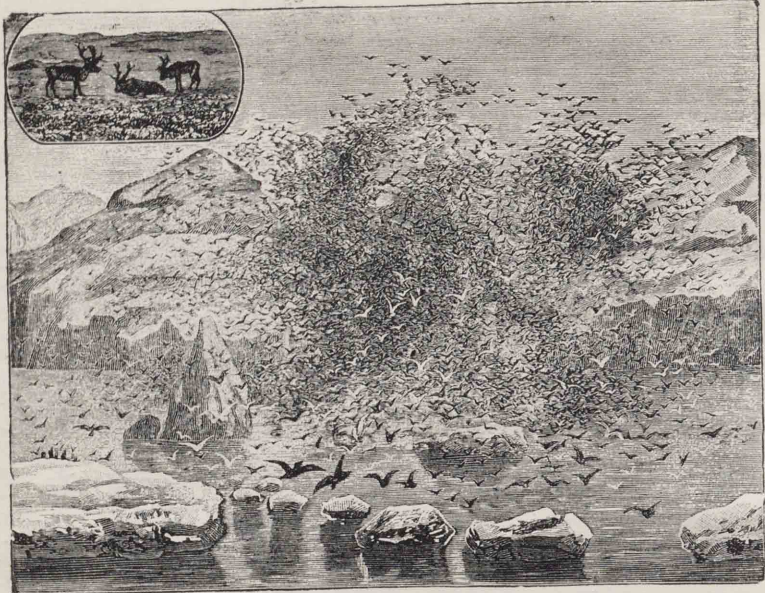


記の如く既習のものな基礎として記述せり但し小なるものは之を省略せることあり

大列島と、二島と、一  
大諸島と、大小九個  
の海灣と、間宮朝鮮  
臺灣の三海峽とあ  
り。馬刺加海峽を西して、印度洋に出づ  
れば、四個の海灣、二大半島、錫蘭島あり。西  
方には、大小四個の海灣、二海峽、一半島と、  
英領？島とあり。  
氣候 南部と南東部とは、高温多雨に  
して、季候風の影響多く、本  
洲重要の農産地こゝにあ  
り。之に反して、中部以北は、



海岸



熱帯の景



寒帯の景

寒冷少雨にして、生物の蕃殖を阻害す。内地は、大陸的氣候にして、沙漠地帯をなせる所あり。中清と我が國とは、氣候溫和なれども、南清と共に、夏秋の候、暴風屢襲來す。又本洲には、世界の最熱地、最寒地の一あり。



工 細 籐

天産物 地積は廣大、氣候は區々たり。宜なる哉、本洲に、生物の種類多き事や。北部には、寒地性の植物生ひ、魚類、海陸の毛皮獸多く、南部には、椰子樹、竹、チーク、籐、猛獸、大蛇などあり。本洲は、鑛物稍豊富なれども、採掘未だ盛ならず。

### 第二節 人文地理

産業 本洲は、文明の程度、概ね低きが故に、農牧を主業とし、原料品、食料品、粗製品を輸出して、歐米の精製品を輸入す。但し日・印二國は、工業稍見るべきものあり。米麥類、大豆、生絲、棉花、茶、甘蔗、香料、護謨、黃麻、藍、阿片の産出地と、牛、馬、豚、羊の飼養盛なる地方と、金、鐵、石炭、石油の産出地方と、綿麻の紡績地方と、絹布産出地とを考察せよ。

貿易は、前途多望なりと雖、現今にては、印、清、日、稍隆盛なるのみ。我が國民の最も注意すべきは、英獨米の商勢の發展と、商業に長ずる清國民の努力との二つとす。

交通 鐵道は、印度に於けるもの、世界屈指の延長を有す。尙ほ我が國の鐵道と、亞細亞露西亞及び滿洲の各鐵道と、亞

細亞土耳其の？國鐵道と、敷設急進なる支那本部の鐵道とは、何れも注目すべし。東亞の海運は、我が國の經營著しく、上海、香港以西は、歐洲諸國、殊に英國の經營著し。又揚子江の水運は、數國の競争する處なり。若し夫れ内陸の交通に至つては、甚だ不備にして、僅に馬駱駝等の交通機關あるのみ。

**住民** 總人口八億五千萬、實に、世界全人口の半ばを過ぐ。氣候溫暖、地味肥沃なる東部(國名)南部(國名)の低地に多く偏住し、其の他は稀薄なり。本洲在住の蒙古、高加索兩人種の重要種族と、そが居住地方と、信奉の宗教如何。馬來族は、何れの地方に住居するか、回教を奉ずるは、何れの種族か、佛教、儒教、道教、印度教、回教、基督教は、各、何れの地方に行はるか。教育に至つては、獨り我が國のみに、普及發達せり。

**政局** 五個の獨立國あるのみにして、其の他は、強國の領地、又は租借地、若くは保護地なり。立憲君主制は、唯、日波二國あるのみにして、他の三獨立國は、專制君主制なり。而して我が國は、清暹羅二國を條約國とす。

抑も我が國は、列強に拮抗すべき、國力と文明と權威とを有して、韓國を併合し、關東州を租借し、南滿洲を扶殖し、清國の保全を確保すれども、其の他の獨立國は、列強の利益競争場となり、又他の威壓を受けざるはなし。

昔時、文化燦然たりし本洲が、現時の如き悲境を脱するは、嗚呼果して何れの日ぞ。想うて爰に至れば、本洲の先進國民たる吾人は、粉骨碎髓、以て他を指導啓發せざるべからざることを、知るに足らん。

附 錄

主要名詞索引

元島縣立女子師範學校

最新系統地理 [中學校用] 外國之部 上卷 (終)



若 松.....港.....30

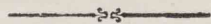
[井 の 部]

威 海 衛.....Wei-hai-wei .....都 邑.....47

渭 水.....Wei-ho .....河.....23

主要名詞索引

[終]



主要名詞索引

無錫	Wu-si	都邑	28.38
ムハメッド	Muhammed	人	64
ムハメッド(回教)			44.60.66.67

[メの部]

メコン(湄公)	Mekong	河	81
メソポタミア	Mesopotamia	平原	62
メヂナ	Medina	都邑	64
メッカ	Mekka	都邑	65
メナム(湄南)	Menam	河	81
メルフ	Merv	都邑	57

[モの部]

蒙古	Mongolia	地方	7.22.43
蒙古人種	Mongolians		100
蒙古族			40
木藍	Indigo	商品	71
モルッカ	Molucca	諸島	86.91

[ヤの部]

ヤク(牦牛)	Yak	家畜	29
亞東	Yatung	都邑	33.35

[ユの部]

ユーラシア	Eurasia	地	93
ユダヤ(猶太)	Judaea	古國	62
猶太		宗教	66

[ヨの部]

揚子江	Yang-ts-kiang		24
歐羅巴露西亞	European Russia	國	51
横濱		港	34

[ラの部]

雷州	Lei-chau	半島	26
ライジングサン	Rising Sun	石油會社	92

老撾	Laos	國	85
洛水			23
拉薩	Lassa	都邑	44
ラブアン	La'uau	島	89
喇嘛教			18.44
ランカト		産油地	90
ラングン(蘭貢)	Langoon	都邑	71
蘭領東印度	Dutch Eas India	地方	92

[リの部]

裏海(カスピ海)	Caspian Sea	湖	53
リバノン	Lebanon	山脈	62
柳樹屯		港	5
遼河	Liau-ho		9
遼東半島	Liautung Peninsula		2.26
遼東灣			9
遼陽	Liau-yong	都邑	17.19
旅順	Port Arthur	都邑	4.10
旅順工科學堂			6
旅順鎮守府			7

[ルの部]

ルソン(呂宋)	Luzon	島	91
ルビー(紅寶石)	Rubies	商品	75

[レの部]

レナ	Lena	河	52
----	------	---	----

[ロの部]

ロスチャイルド	Rosechild	人	92
ロックフェラー		人	92
ロブノル	Lob-nor	湖	25
ロンボク	Lombok	海峡	86

[ワの部]

黄麻	Jute	商品	71
----	------	----	----

ヒンズー.....Hindus.....種族.....79  
 ヒンズークシ.....Hindukush.....山脈.....66

〔フの部〕

ブータン.....Bhutan.....國.....80  
 フィリピン(比律賓).....Philippine.....諸島.....86.92  
 フェニキア.....Phoenicia.....古國.....62  
 福建省.....Fu-kien.....地方.....45  
 福州.....Fu-chau.....都邑.....28.33.36.51  
 武昌.....Wu-chang.....都邑.....34  
 撫順.....Fu-shun.....炭坑地.....13.19  
 ブダガヤ.....Buddha-gaya.....地.....79  
 佛領印度支那.....French Indo-China.....地方.....81.85  
 ブラマプトラ.....Brahmaputra.....河.....69  
 ブリットン.....Billiton (Blitceng).....島.....89  
 プリビロフ.....Pribylov.....島.....53

〔への部〕

ベリング.....Behring.....海峽.....53  
 ベリング.....Behring.....海.....53  
 苗民.....民族.....40  
 北京.....Peking.....都邑.....23.37  
 ベテレム.....Bethlehem.....地.....65  
 ベナレス.....Benares.....都邑.....79  
 波斯.....Persia.....國.....61.63  
 波斯.....Persia.....灣.....61  
 ヘルチスタン(俾路芝斯坦).....Baluchistan.....地.....66  
 ヴェルホヤンスク.....V. khojansk.....都邑.....54  
 ベンガル.....Bengal.....灣.....68

〔ホの部〕

法庫門.....Fa-ku-men.....都邑.....11.16  
 奉天.....Mukden.....都邑.....15.19.20  
 北江.....Pe-Kiang.....25  
 北極洋.....Arctic Ocean.....94.95  
 北嶺.....Pe-ling.....山脈.....24.94  
 ポシエット.....Possiet.....灣.....16

ボスボロス.....Bosphorus (Bosporos).....海峽.....61  
 渤海.....Pechili Sea.....2.23  
 ボハラ.....Bokhara.....國.....60  
 ボルネオ.....Borneo.....島.....86.89  
 本溪湖.....産炭地.....13  
 香港.....Hong-kong.....港.....48.35.36  
 孟買.....Bombay.....都邑.....74.75.76.77  
 ホンベイ航路.....78

〔マの部〕

買賣城.....Maimatchin.....都邑.....33  
 澳門.....Macao.....都邑.....50  
 マドラス.....Madras.....都邑.....75.76  
 マナー.....Manaar.....灣.....75  
 マニラ.....Manila.....港.....91  
 マニラ麻.....88  
 マニラ煙草.....88  
 マライシア.....Malaysia.....86  
 馬來諸島.....Malay Alehipelago.....86-93  
 馬來族.....92  
 馬來半島.....Malay Peninsula.....81  
 馬來聯邦.....Fed-eratd Malay States.....82  
 マラカ.....Malacca.....海峽.....81  
 マルマラ.....Marmora.....海.....61  
 滿洲.....Manchuria.....地.....7-21.22.44  
 滿洲族.....40  
 滿洲總督.....19  
 滿洲里.....Manchuria.....地.....15.58  
 マンダレー.....Mandalay.....都邑.....78

〔ミの部〕

ミッドウェイ.....Midway.....島.....91  
 南支那海.....South China Sea.....22  
 南滿洲鐵道.....4.5.16.21

〔ムの部〕

ムガル(莫臥兒帝國).....Mughal Empire.....80

頭道溝	都邑	17
得利寺	都邑	19
トムスク	都邑	58
トランスカスピ	鐵道	57
土其耳	民族	40.59.65.78
東江		25
東京	地方	85
東京(ソソコイ)	河	81
東京	灣	26

[十の部]

南京(江寧)	都邑	31.36.38
南昌		31
南西季候風		70
南寧	都邑	33.84
南滿醫學堂		18.45
南嶺	山脈	22

[ニの部]

ニューギネア	島	92
肉桂		71
ニコライエフスク	都邑	56
西ガッツ	山脈	69
西シベリア		61
西朝鮮	灣	9
日清汽船會社		2
ニメア	古都	62

[ネの部]

ネパール	國	80
------	---	----

[ノの部]

ノニ(嫩江)	河	8
--------	---	---

[ハの部]

バイカル	湖	52
------	---	----

買賣城	都邑	33.35.38
ハイフォン(海防)	都邑	84
バク	都邑	55.92
白河		23.33.34
バグダード	都邑	64
バタビア	都邑	91.92
バツム	都邑	55
パトナ	都邑	71
ハノイ(河内)	都邑	84.85
ハバロフスク	都邑	58.60
馬尾	都邑	32
バビロニア	古國	62
バビロン	古都	62
パミール	高原	22.93
バルハシ	湖	53
ハルビン	都邑	10.15.19.61.69
バルマ(緬甸)	地	69
バルマ	民族	78
ハンカ(興凱)	湖	9
バンカ	島	89
漢口	都邑	25.28.31.33.34.36.51
漢江	河	24
バンコク(盤谷)	都邑	84.85
鄱陽湖		24
バンヤン樹		70
萬里長城		46

[ヒの部]

ピーオー(彼河)	汽船會社	78
東印度	諸島	86
東ガッツ	山脈	69
東シベリア		60
ピナン(彼南)	港	83
ヒバ	國	60
ヒマラヤ	山地	68.70
ヒマラヤ	山脈	22
萍鄉	炭坑地	31

成	都	C en-tu	都	邑	25.31
青	島	Tsing-tau	都	邑	48
錫	蘭	Ceylon	島		28.68-81
浙	江	Che-kiang	地	方	32.45
セ	レ	ハ	ス	海	87
セ	レ	セ	ス	島	86
川	漢	鐵	道		34.39
俠	西	省	地	方	45

〔ソの部〕

蘇	州	Su-hau	都	邑	31.34.36.38.51		
外	カ	ス	ピ	鐵	道	Trans-Caspian Railway	57
ソ	ン	コ	イ	河		Song'koi	81

〔タの部〕

大	運	河	Grand Canal		33.35.46			
大	石	橋		都	邑	15.19		
太	平	洋	Pasific Ocean		94.95			
大	運	Dairen (Talien)	都	邑	3.4.5.7			
大	運			灣	2			
大	冶	Tayeh	鐵	山	30.31			
大	臺	灣	Formosa	地	35.86			
臺	灣	海	峽		35			
太	沽	Ta-ku	都	邑	23.34			
タ	シ	ケ	ン	ト	Tashkent	都	邑	58.60
タ	リ	ム	Tarim	河	25			
タ	リ	ム	盆	地	22			
ダ	ル	ダ	ネ	ル	Dardan-elles	海	峽	61

〔チの部〕

チ	ク	Tiek Tree	樹	70.82.53					
チ	フ	ー (芝罘)	都	邑	4.33.36				
チ	ェ	リ	ア	ビ	ン	ス	ク	Chelyabinsk	58
チ	グ	リ	ス	Tigris	河	61			
齊	々	哈	爾	Tsitsihar	都	邑	17.19		

地	中	海	Mediterranean Sea		61		
チ	フ	リ	ス	Tifis	都	邑	60
西	藏	藏	Tibet	地	方	22.27-40	
西	藏	高	原		22		
西	藏	族			40		
チ	モ	ル	Timor	島	86		
茶		Tea	商	品	27.71.89		
張	家	口	Kha-g'lan	都	邑	38	
重	慶	慶	Chang-king	都	邑	25.33.35.36.51	
長	山	列	島		2		
長	沙	沙	Clang-sha	都	邑	36	
長	春			地	方	5.11.15.17	
長	白	山	脈	Chan-pai Shan		8.22	
直	隸	Pechili	海	峽	26		
直	隸	省	Pechili	地	方	26.45	
直	隸	江	Chin-kiang	都	邑	25.31.38	
青	島	Tsing-tau	都	邑	48		

〔ツの部〕

通	江	口		都	邑	11	
ツ	チ	コ	リ	ン	Tutticorin	港	74
ツ	ン	ド	ラ	Tundra	凍	土	55

〔テの部〕

テ	ー	ト (檳榔子)	Date palm		64		
テ	カ	ン	Deccan	高	原	68.69.71	
鐵	嶺	Tieh-ling	都	邑	10.11.17		
テ	ヘ	ラ	ン	Teher n	都	邑	67
テ	リ	ー	Delhi	都	邑	80	
天	山	Thian-shan	山	脈	22.51		
天	津	Tientsin	都	邑	23.33.36.37.51		

〔トの部〕

東	郷	坑			13
東	道	教			18
東	清	鐵	道		15
洞	庭	湖	Tung-ting-hu		24

滬寧鐵道	.....	38	
ゴビ(戈壁)	Gobi	沙漠	26
コアラ	Colra	毒蛇	70
コプラ	Coprah	商品	89
湖北省	Hu-peh	地方	45
コマンドル	Komandorsky	諸島	53
ゴム(護謨)	Gum	商品	64.83
コロンボ	Colombo	港	74.77
暹羅	Hing-chung	都邑	16.17
崑崙	Kuen-lun	山脈	22

〔サの部〕

サイゴン(柴棍、西貢)	Saigon	都邑	84.85
濟南	Tsi-nan	都邑	38
西穀米	Sago	商品	98
サルウィン	Salwin	河	69.71
山海關	Shan-ai-kwan	都邑	38
山嶽帶	.....	54	
山西省	Shan-si	地方	45
山西省炭田	.....	3)	
山東省	Shan-tung	地方	45
山東鐵道	.....	38.48	
山東半島	.....	26	

〔シの部〕

シヤバ(瓜哇)	Java	島	36.86.87.89.91
暹羅	Siam	國	81
暹羅灣	.....	81	
上海	Shang-hai	都邑	25.28.31.33.34.36.38
死海	Dead Sea	湖	62
四川省	Sze-chuen	地方	45
支那本部	China Proper	地方	7.16.22.45
西比利亞	Siberia	地方	51.60
西比利亞鐵道	Siberian Railway	.....	58
シムラ	Simla	都邑	70
沙河	Shaho	.....	19

麝香鹿	Musk-Dar	.....	29
沙市	Sha-shi	都邑	33.34.36.51
縱貫山脈	.....	22.81.93	
珠江	Shu-kiang	.....	25
松花江	Sungari	.....	8
シラル	Syr darja	河	53
清(支那)	China	國	1-51
シンガポール(新嘉坡)	Singapore	都邑	83.84
シンガポール	.....	島	83
新疆省	Sin-kiang	地方	22.45
盛京省	Shing-king	地方	8.45
秦皇島	Chinwangtao	港	33
津浦鐵道	.....	38.33	
新民府	.....	都邑	16.17

〔スの部〕

蘇士	Suez	地峽	61
蘇士運河	.....	64	
スクタリ	Scutari	都邑	64
スタンダード	.....	石油會社	92
ステップ	St ppe	草原	54
ストレンチェンスク	Stre ensk	都邑	58
スマトラ	Sumatra	島	81.86.89
スマイルナ	Smyrna	都邑	64
スラバヤ	Soerabaya	都邑	91
油頭	Swa au	都邑	33.33
隋煬帝	.....	人	37
スンガリ(松花江)	Sungari	河	8
スンダ	Sunda	海峽	87
スンラ	San'la	列島	86

〔セの部〕

西安	Si-ngan	都邑	24
青海	Koko-nor	地	22.45
青海湖	Koko-nor	湖	25
盛京省	Shing-king	地方	8
清津	.....	都邑	17

漢口	Han-kan	都 邑	25, 28, 31, 33, 34, 36, 51
甘肅省	Kan-su	地 方	45
廣西省	Kwang-si	地 方	45
漢族		種 族	17, 41
廣州灣	Kwang-chau		50
間島			18, 31, 34
廣東省	Canton	都 邑	25, 28, 33, 35, 36
廣東省	Kwang-tung	地 方	45
關東州		地 方	1-7
カンボジア(柬埔寨)	Cambodja	國	85
漢陽	Han-yang	都 邑	3, 31, 34

[キの部]

キヤフ	Kjakhta	都 邑	35, 56
九江	Kiu-Kiang	都 邑	28, 31
九龍	Kauling	半 島	50
貴州省	Kui-chau	地 方	45
徽州			31
吉會鐵道			16
宜昌	I-Chang	都 邑	24
吉長鐵道			16
キノ(幾那)	Quinine	商 品	71, 89
キプロス	Cyprus (Kypros)	島	62
局子街		都 邑	17
曲阜	Chu-fu	都 邑	41
ギリシア(希臘)	Greece		65
キリスト(基督)	Christ		64
キリスト(基督教)			44, 60, 66
吉林	Kirin	都 邑	17, 19
吉林省		地 方	8, 48
錦愛鐵道			16
興安嶺	Khingan	山 脈	8, 94
金州		灣	2
金州		都 邑	7
錦州		都 邑	16

[ケの部]

ケリー(苦力)			41
---------	--	--	----

クローン(庫倫)		都 邑	38, 44, 64
クイエット	Kuiet	都 邑	89
クラカタウ	Krakatau	島	87

[ケの部]

グイゼリリンク伯汽船會社			59
京漢鐵道			34
京張鐵道			38
景德鎮		都 邑	81
京奉線			16, 33, 38
ケラット	Kelat	都 邑	67

[コの部]

コーヒ(珈琲)	Coffee	商 品	64, 71, 89
ゴア	Ga	都 邑	80
興安嶺	Khingan	山 脈	8, 22
黄河	Hwang-ho		23
紅海	Red Sea		61
黄海	Yellow Sea		2
杭州	Hang-chau	都 邑	31, 33, 36, 37, 51
杭州鐵道			38
膠州灣	Kiau-chau		48
廣州灣	Kwang-chau		50
江西省	Kiang-si	地 方	45
江蘇省	Kian-su	地 方	32, 45
江寧(南京)	Kiang-ning	都 邑	25, 31, 33, 36, 38
黃埔江	Hwang-po		34
溝壩子			16
香料諸島	Spice Islands		91
黑海	Black Sea		52, 61
黑龍江	R. Amur		32
黑龍江沿海地方			60
黑龍江省			8, 45
青海	Koko-nor		23, 26, 45
交趾支那	Cochin-Chine	地 方	84, 85
胡椒	Pepper	商 品	89
湖南省	Hu-nan	地 方	45

〔イの部〕

イーチャン(宜昌)	I-chang	都 邑	24
イェニセイ	Yenisei	河	25. 52
イェルサレム	Jerusalem	都 邑	64
威海衛	Wei-hai-wei	都 邑	47
イラニア	Irania	民 族	66
イラワヂ	Irawadi	河	69. 71
イラン	Iran	地	51. 66-68
伊犁	Ili	河	53
イルクツク	Irkutsk	都 邑	58. 59. 61. 61
陰山		山 脈	22. 93
印度	India	國	66. 68-81
印度支那	Indo-China	地	81-85
インドス	Indus	河	69
印度平原			68. 69
印度洋	Indian Ocean		61. 68. 94. 95

〔ウの部〕

吳淞	Wu-sung	港	38
烏蘇里江		河	8
ウスリ線	Ussuri line	鐵 道	58
浦鹽斯德	Vladivostok	港	56
ウラル	Ural	山 脈	51
ウルガ(庫倫)	Urga	都 邑	38. 41. 64
雲南		都 邑	29. 78. 64. 84
雲南省		地 方	33. 45

〔エの部〕

營口	Yingkow	都 邑	4. 9. 15. 17
英領海峽植民地	Straits Settlements	地	81. 85
英領緬甸		地	39
エウフラト	Euphrates	河	61
枝光製鐵所			31. 31
粵漢鐵道			34
エベレスト	Everest	山	63
エルブールズ	Elburz	山 脈	51. 63

煙台	Yen-tai	都 邑	13
----	---------	-----	----

〔オの部〕

オアシス(泉地)	Oasis	地	63
大山坑			13
オホ	Ob	河	52
オホーツク	Okhotsk	海	33
オマーン	Oman	國	66
オムスク	Omsk	都 邑	58. 61
オレンブルグ	Orenburg	都 邑	58

〔カの部〕

カイダロ	Kaidalov	都 邑	58
海南	Hai-nan	島	26
會寧		都 邑	16
開平	Kaiping	地	30
開封	Kai-fong	都 邑	24
海洋島			2
九龍	Kauling	半 島	50
カシミヤ		織	76
カシミール	Kashmir	地 方	76
カスピ(裏)海	Caspian Sea	湖	53
裏海艦隊			57
河南	Ho-an	都 邑	24
河南省		地 方	45
カビテ	Cavite	軍 港	92
カブール	Kabul	都 邑	67
カフカズ(高加索)	Caucasus (Kavkas)	地 方	51. 60. 61
高加索		山 脈	51
高加索		人 種	60
カムチャツカ	Kam'charka	半 島	52
カラチ	Karachi	港	72. 76
樺太		島	33
カルカッタ	Calcutta	都 邑	70. 72. 76. 77
カルカッタ航路			71. 78
ガンガ	Ganges (Gangá)	河	69



# 主要名詞索引

(數多の個所に散在せるものは其の全部又は一部を省略せり 清國の地名は概ね普通の讀み方に從へり)

## [ア の 部]

アイグン(愛璽)	Aigun	地方	16
アッサム	Assam	地方	70
亞細亞土耳其	Asiatic Turkey	地	51. 61-65
亞細亞露西亞	Asiatic Russia	地	51-61
アダム橋	Adams Bridge	島	75
アッシリア	Assyria	古國	62
アデン(亞丁)	Aden	都邑	65
亞東	Yatung	都邑	33
アフガニスタン(阿富汗斯坦)	Afghanistan	國	63
アフリカ	Africa		61
亞片		商 品	27. 71
アマダージャ	Amu Darja	河	53
アムール	Amur	河	8
アモイ(厦門)	Amoi	港	28. 33. 35. 33. 51
亞刺比亞	Arabia	地	61-65
亞刺比亞	,,	海	65
亞刺比亞	,,	半 島	64
アラブ	Arabs	民 族	65. 78
アララット	Ararat	山	61
アラール	Aral	海	53
アルタイ(亞爾泰)	Altai	山 脈	51. 22
アルメニア	Armenia	地 方	61
安徽省	Ngan-hwei	地 方	32. 45
アンゴラ山羊	Angora Goat		64
安東	Antung	都 邑	12. 17
安南	Annam	地 方	85
安奉線			15

明明明明  
 治治治治  
 四四四四  
 十十十十  
 五四四四  
 年年年年  
 三十二十  
 二二二一  
 月月月月  
 十廿廿廿  
 四六四一  
 日日日日  
 第訂訂發  
 三正正  
 版再再  
 印刷版  
 發行版  
 行刷行刷



著 者 守屋荒美雄

發行者 杉本光治

印刷者 金子久太郎

印刷所 三協印刷株式會社

系統地理中學用

國外	上卷	定價金	三十八錢
國外	中卷	定價金	三十七錢
國外	下卷	定價金	四十錢

發行所

東京市日本橋區  
本石町二丁目

杉本光文館

電話本局一六九八番

振替口座東京五六一三番

關西代理店

大阪市南區  
心齋橋筋一丁目

松村文海堂

電話本局南九番

振替口座大阪四三二番

Second year

Class

a division

Northidge

Handwritten signature or initials in the top right corner of the right page.

私  
立  
廣  
陵  
中  
學  
校

廣  
陵  
中  
學  
校  
私  
立  
中  
學  
校



鼓  
重  
俊  
圓